

特 100

561



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

始



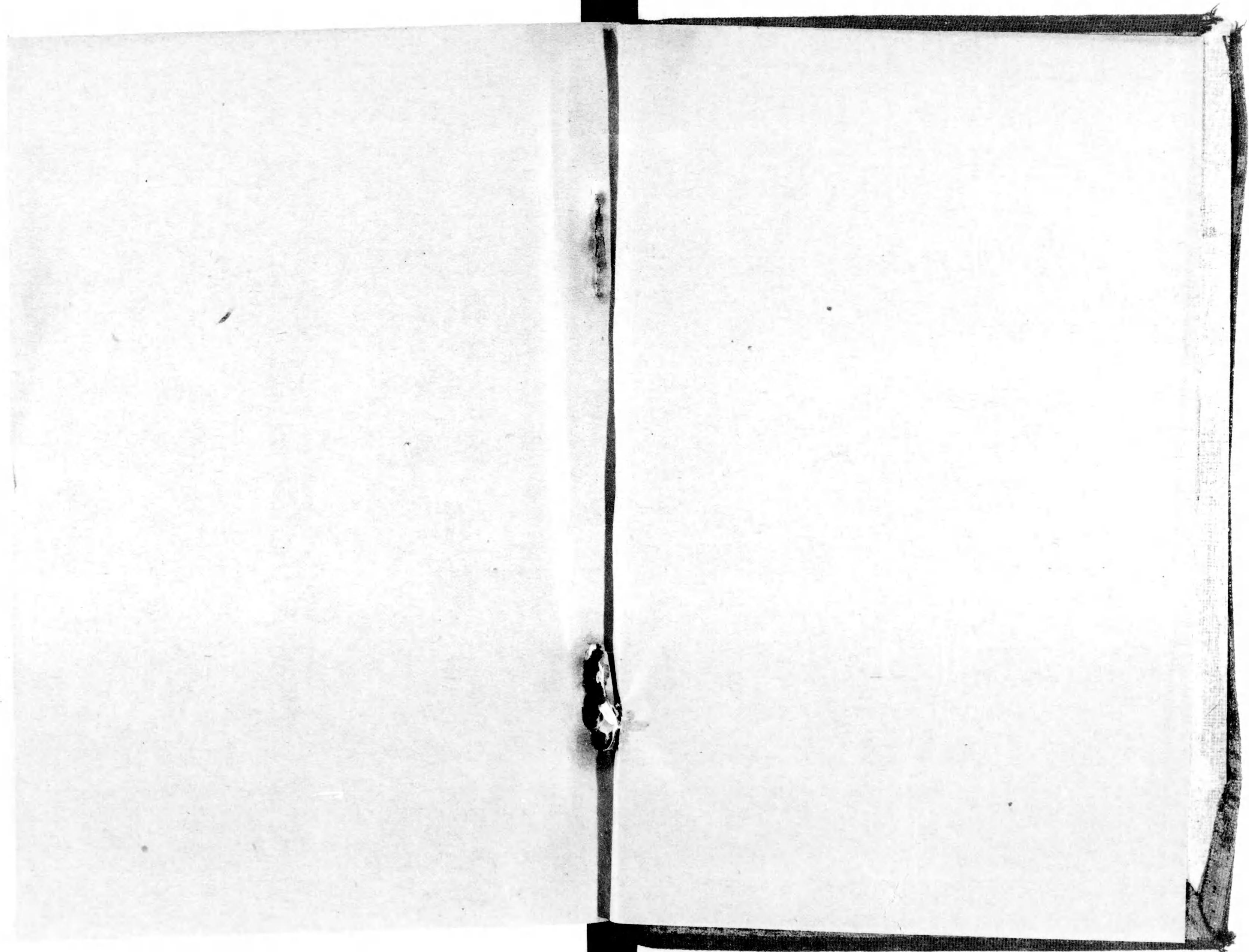


特  
...

長  
河  
用  
の  
資  
料

X







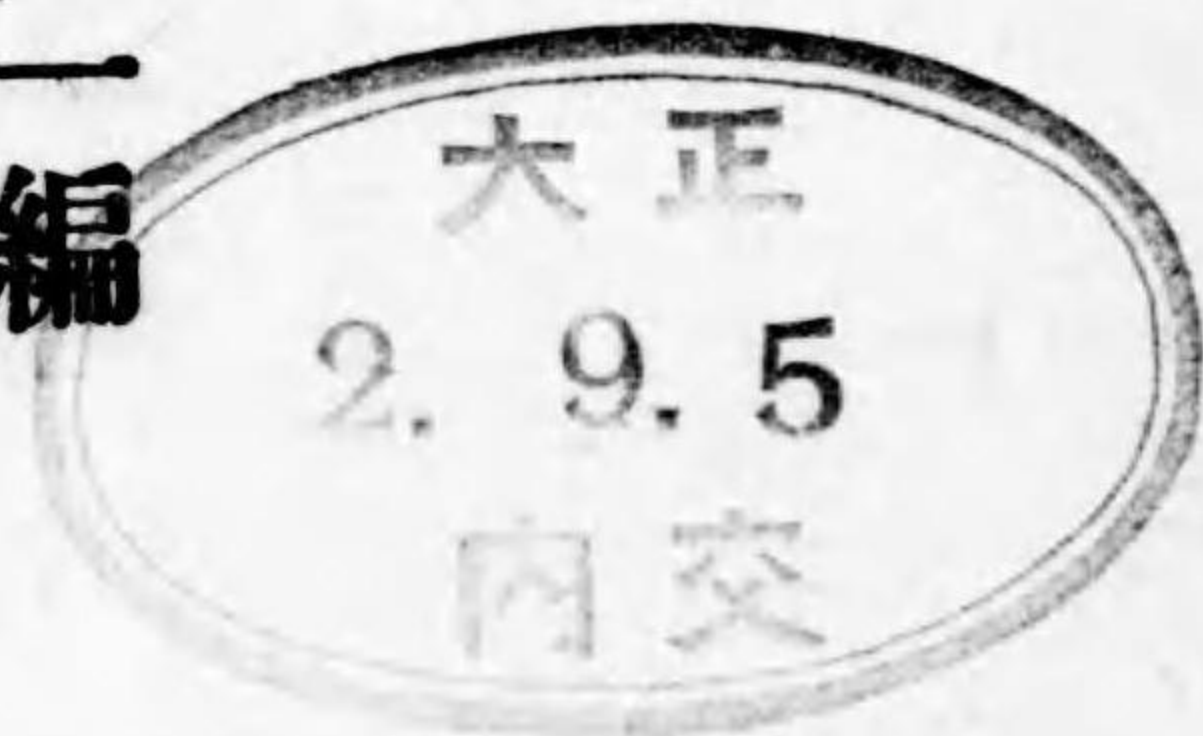
特.100  
561



尋常小學  
讀本  
教授活用の資料

第一編

佐藤秀之助  
大井有隣  
共編





は し が き

「今日の讀方の教授は甚だ困難である、漢字の數は多いし、語句は高尚であるし、兒童をして之を理解し記憶させることは、いくら骨を折つても六ヶ敷い。」

なごういふことを屢々耳にする。成程さうかも知れん。

然し、夫れほどまで困難な、漢字や語句を扱ふのに、什麼用意があるかといふことを省みねばならんと思ふ。

私共はいつも、教授した事が徒らになることを恐れてゐるのであるが、平素、此の漢字と語句に對して、用意し經驗して、是非無くてはならんものであると思つたものを、こゝに蒐集して



見たのである。之を教授上活用の資料とでもしたなら、多少でもこの苦しい聲を減ずることが出来ようと、さてこそ此の書が生れたのである。

固より補正を加へねばならぬ所が多々あることと信ずるが、之は漸成を期したい。又、之だけの用意では、讀方の教授には不足であると思ふが故に、第二、第三と編を重ねたいと思つてゐる。

大正二年七月

編者識す

尋常小學  
讀本  
教授活用の資料 第一編

目次

第一章 漢字に就いて

第一節

- イ、漢字教授の仕事
- ロ、漢字の復習
- ハ、誤つた漢字教授
- ニ、部首名稱
- ホ、讀本新出漢字部首彙類表

第二節

- イ、新出漢字讀替へ表取扱上の注意
- ロ、新出漢字讀替へ表
- ハ、連線附讀方一覽表

(1)

一

二



第二章 語句に就いて

七五

第一節

七五

- 一、語句の解釋法
- 二、語句の練習
- 三、各學年に於ける語句取扱の方針

第二節

八〇

各課に於ける語句解釋表

附 録

國定教科書に採れる標準讀方

一二二

目 次

- 一、御歴代の部
- 二、人名の部
- 三、官職名、諸役所名等の部
- 四、神社、佛寺、城等の部
- 五、地名等の部
- 六、山、山脈等の部
- 七、河川の部
- 八、湖の部
- 九、海、灣等の部
- 十、生物産物の部

尋常小學 教授活用の資料 第一編

第一章 漢字に就いて

讀本に漢字が増されてからは漢字に關する問題が諸方に起つて中々八釜敷い。或者是漢字削減を唱へ或者是如何にして漢字教授を有効ならしむるかとかいふ。之に答ふる者、否む者、和する者、種々である。兎に角世の注意をこゝに集注せしめたのは事實である。以下この漢字の取扱に就いて極く大略を記して見たい。詳細は何れ編を追ふて述へる機會があると思ふ。

第一節

1. 漢字教授の仕事

漢字教授の要件は(一)讀方を授ける(二)内容を授ける(三)字形を授ける(四)應用さすことであらう。

(一)讀方を授けるには何時も低學年に於てする様に兒童を受身の位置に立たし注入してばかり居ては讀書力はつき難い。相當の學年では(い)扁旁等の關係か



ら讀方を類推して發見させたり、(ろ)前後の關係から推讀させたりは(辭書を使用させる等の方法を探らねばならん。(に)既習文字と結合せしめて卑近な熟語としたり(は)字形内容の類似正反對のもの異字同訓のものと連絡して扱つたり(へ)語源や分解によつて讀ませるといふやうな事をする

(二)内容即ち漢字の意義を知らせるのも殆んど(一)の場合と同様である單に一字の漢字として教へることは記憶の上から見ても損であるから普通言葉として授けるのである。又讀方は分らんが凡その意味は悟ることが出来る場合が多い。此の仕事即ち推讀は讀書力養成上大切な事で兒童から質問させるにも自分はこう思ふがどうであるかと問はしめ、あなたは何と考へるかと問ふて導かねばならんと思ふ。

授けられる字であるなら六書の法を示すのも一法である。

(三)字形教授、學校として一定して筆順によつて正確に教へねばならん。字劃を數へさせたり、文字を分解して口唱させたり、手早く空書させること等は大切な仕事であらう。

其他漢字教授の時間時期等の問題があるが紙數に制限があるから之で止め置く。

### ロ、漢字の復習

反復は記憶の母である以上は復習を怠つてはならん。それには先づ既習の漢字と其の學習した課までを教授する者が知つてをる事は何より必要である。復習の方法には色々あるであらうが大体

- (一)應用文中に挿入する
- (二)書取||聽寫と視寫
- (三)類字別(字形と内容)例へば大太犬。木林、川水、金鐵等。
- (四)反對の意味ある字、例へば天地上下等
- (五)部首別に彙類||之は餘り嚴密に辭書的にさせることは困難でもあるしさうまでする必要もない。部首を選んで數の多いものを採らねばならん。一時的もよいが永い計畫を立てる自習的に學習文字を加へていかすのも宜い。

こんなものが普通の復習法であらう。其の他は語句教授の部に入る。この意味に於て本書に採つたやうな漢字表は活用の方面が廣くて重要なものであらう。



### 八、誤つた漢字教授

一千四百に近い漢字を悉く使用が出来るやうに記憶させやうと思ふのは無理な注文であり不可能である。高等科に至つては更に甚しい。漢字數が多い過ぎるといふ人達はこんな誤つた考を以てをるのであらうと思ふ。何の漢字も片端から同じ様な扱をしていつてはたまるまい。果して其の必要が有るだらうか。字によつては讀み得たら宜いものと讀み得る上に書き得ねばならんものがあると思ふ。其處に教授の加減要求の加減が出来る。さうなくてはならんものと思ふ。其の選擇の標準は、

- (一) 基本文字かどうか
- (二) 實用上のものか

その次に誤つた漢字教授とみるべきは讀方教授の大部分は漢字教授に取られるといふ事である。漢字教授が讀方教授の全体である様に思はれてゐる。又行はれる事である。

こゝなつては漢字過重論の起るのも無理からの事であると云はねばならん。本書が漢字と語句を採つたのは教授經濟の上からみたので讀方教授即ち漢字教授と考へたからで無い事を斷つておく。

### 二、部首名稱

乙	オツ子ウ	匚	ハコガマヘ	宀	ウカンムリ	戶	トガシラ	欠	フクツクリ
ナ	ナメアマ	匚	ケイガマヘ	寸	スンヅクリ	手	テヘン	夕	カツヘン
人	ヒトガシラ	刀	リツタウ	尸	シカバネダレ	支	シチウ	夂	ルマタ
イ	ニンヘン	勹	ハウガマヘ	山	ヤマヘン	攴	ホクヅクリ	彳	サンツイ
儿	ニンチウ	冂	ツツミガマヘ	工	タクミヘン	予	ヨヘン	水	シタミツ
儿	カセガマヘ	冂	カンダレ	巾	キンメン	文	ブンチウ	火	ヒヘン
儿	キチウ	冂	セツヅクリ	广	マダレ	斤	チノヅクリ	爪	レツクワ
入	イリガシラ	口	クニガマヘ	廴	エンチウ	方	カタヘン	瓜	ツメガシラ
八	ハチガシラ	彡	サンヅクリ	弓	ユミヘン	日	ニチヘン	月	ツギヘン
冂	ケイガマヘ	彡	エウヘン	心	ケイガシラ	日	ヒラビ	犬	ケモノヘン
冂	ワカンムリ	大	ダイガシラ	心	シタゴコロ	木	ヒラギ	牛	ウシヘン
ノ	ニスイ	夕	スイネウ	木	リツシンメン	木	キヘン	牙	キバヘン
山	カンガマヘ	子	コヘン	戈	ホコヅクリ	月	ツギヘン	片	ヒカリカタ











尺	山	川	工	己	巾	干	玄	广	弓	弋	彳	彳
居 <sub>六</sub>	山 <sub>六</sub>	川 <sub>六</sub>	工 <sub>六</sub>	己 <sub>六</sub>	巾 <sub>六</sub>	干 <sub>六</sub>	玄 <sub>六</sub>	广 <sub>六</sub>	弓 <sub>六</sub>	弋 <sub>六</sub>	彳 <sub>六</sub>	彳 <sub>六</sub>
年 <sub>七</sub>	左 <sub>五</sub>	島 <sub>七</sub>	岩 <sub>三</sub>	店 <sub>一</sub>	引 <sub>三</sub>	弟 <sub>六</sub>	弓 <sub>六</sub>	引 <sub>三</sub>	弟 <sub>六</sub>	弓 <sub>六</sub>	引 <sub>三</sub>	弟 <sub>六</sub>
尺 <sub>六</sub>	岸 <sub>一</sub>	峰 <sub>一</sub>	工 <sub>三</sub>	帆 <sub>三</sub>	市 <sub>四</sub>	平 <sub>四</sub>	廣 <sub>七</sub>	度 <sub>五</sub>	強 <sub>三</sub>	弱 <sub>三</sub>	形 <sub>三</sub>	御 <sub>一</sub>
屋 <sub>四</sub>	岡 <sub>六</sub>	差 <sub>五</sub>	差 <sub>五</sub>	布 <sub>八</sub>	帝 <sub>三</sub>	幸 <sub>二</sub>	幾 <sub>九</sub>	座 <sub>六</sub>	張 <sub>六</sub>	式 <sub>一</sub>	建 <sub>九</sub>	影 <sub>八</sub>
尾 <sub>八</sub>	局 <sub>三</sub>	幣 <sub>三</sub>	帥 <sub>八</sub>	常 <sub>一</sub>	師 <sub>八</sub>	幕 <sub>一</sub>	巡 <sub>三</sub>	嵐 <sub>九</sub>	崩 <sub>四</sub>	屬 <sub>三</sub>	吠 <sub>一</sub>	往 <sub>三</sub>
壯 <sub>七</sub>	堤 <sub>三</sub>	尉 <sub>七</sub>	寢 <sub>七</sub>	害 <sub>七</sub>	察 <sub>七</sub>	始 <sub>九</sub>	婦 <sub>一</sub>	威 <sub>八</sub>	娘 <sub>一</sub>	尖 <sub>二</sub>	專 <sub>三</sub>	尋 <sub>五</sub>
卷 <sub>六</sub>	卷 <sub>七</sub>	卷 <sub>八</sub>	卷 <sub>九</sub>	卷 <sub>十</sub>	卷 <sub>十一</sub>	卷 <sub>十二</sub>	卷 <sub>十三</sub>	卷 <sub>十四</sub>	卷 <sub>十五</sub>	卷 <sub>十六</sub>	卷 <sub>十七</sub>	卷 <sub>十八</sub>
夏 <sub>二</sub>	士 <sub>四</sub>	奉 <sub>七</sub>	夫 <sub>八</sub>	妻 <sub>三</sub>	孫 <sub>九</sub>	富 <sub>三</sub>	密 <sub>三</sub>	宴 <sub>二</sub>	富 <sub>三</sub>	密 <sub>三</sub>	宴 <sub>二</sub>	富 <sub>三</sub>
少 <sub>七</sub>	學 <sub>九</sub>	字 <sub>四</sub>	夜 <sub>三</sub>	多 <sub>七</sub>	外 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>
尤 <sub>小</sub>	寸 <sub>三</sub>	子 <sub>二</sub>	女 <sub>二</sub>	大 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>
尤 <sub>小</sub>	寸 <sub>三</sub>	子 <sub>二</sub>	女 <sub>二</sub>	大 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>

尤 <sub>小</sub>	寸 <sub>三</sub>	子 <sub>二</sub>	女 <sub>二</sub>	大 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>
尤 <sub>小</sub>	寸 <sub>三</sub>	子 <sub>二</sub>	女 <sub>二</sub>	大 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>
少 <sub>七</sub>	學 <sub>九</sub>	字 <sub>四</sub>	夜 <sub>三</sub>	多 <sub>七</sub>	外 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>
少 <sub>七</sub>	學 <sub>九</sub>	字 <sub>四</sub>	夜 <sub>三</sub>	多 <sub>七</sub>	外 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>	夕 <sub>三</sub>
寸 <sub>六</sub>	寺 <sub>六</sub>	守 <sub>三</sub>	客 <sub>三</sub>	宮 <sub>三</sub>	實 <sub>一</sub>	家 <sub>三</sub>	寒 <sub>二</sub>	季 <sub>二</sub>	妹 <sub>八</sub>	如 <sub>二</sub>	姊 <sub>六</sub>	妻 <sub>三</sub>
寸 <sub>六</sub>	寺 <sub>六</sub>	守 <sub>三</sub>	客 <sub>三</sub>	宮 <sub>三</sub>	實 <sub>一</sub>	家 <sub>三</sub>	寒 <sub>二</sub>	季 <sub>二</sub>	妹 <sub>八</sub>	如 <sub>二</sub>	姊 <sub>六</sub>	妻 <sub>三</sub>
定 <sub>三</sub>	寫 <sub>五</sub>	安 <sub>六</sub>	室 <sub>一</sub>	存 <sub>五</sub>	孝 <sub>一</sub>	富 <sub>三</sub>	密 <sub>三</sub>	宴 <sub>二</sub>	富 <sub>三</sub>	密 <sub>三</sub>	宴 <sub>二</sub>	富 <sub>三</sub>
定 <sub>三</sub>	寫 <sub>五</sub>	安 <sub>六</sub>	室 <sub>一</sub>	存 <sub>五</sub>	孝 <sub>一</sub>	富 <sub>三</sub>	密 <sub>三</sub>	宴 <sub>二</sub>	富 <sub>三</sub>	密 <sub>三</sub>	宴 <sub>二</sub>	富 <sub>三</sub>
尉 <sub>七</sub>	寢 <sub>七</sub>	害 <sub>七</sub>	察 <sub>七</sub>	始 <sub>九</sub>	婦 <sub>一</sub>	威 <sub>八</sub>	娘 <sub>一</sub>	尖 <sub>二</sub>	專 <sub>三</sub>	尋 <sub>五</sub>	寄 <sub>一</sub>	失 <sub>三</sub>
尉 <sub>七</sub>	寢 <sub>七</sub>	害 <sub>七</sub>	察 <sub>七</sub>	始 <sub>九</sub>	婦 <sub>一</sub>	威 <sub>八</sub>	娘 <sub>一</sub>	尖 <sub>二</sub>	專 <sub>三</sub>	尋 <sub>五</sub>	寄 <sub>一</sub>	失 <sub>三</sub>
對 <sub>三</sub>	宛 <sub>一</sub>	完 <sub>三</sub>	委 <sub>一</sub>	好 <sub>一</sub>	妙 <sub>一</sub>	委 <sub>一</sub>	奏 <sub>三</sub>	奪 <sub>三</sub>	奮 <sub>二</sub>	對 <sub>三</sub>	宛 <sub>一</sub>	完 <sub>三</sub>
對 <sub>三</sub>	宛 <sub>一</sub>	完 <sub>三</sub>	委 <sub>一</sub>	好 <sub>一</sub>	妙 <sub>一</sub>	委 <sub>一</sub>	奏 <sub>三</sub>	奪 <sub>三</sub>	奮 <sub>二</sub>	對 <sub>三</sub>	宛 <sub>一</sub>	完 <sub>三</sub>
就 <sub>九</sub>	尊 <sub>四</sub>	封 <sub>一</sub>	容 <sub>三</sub>	宗 <sub>一</sub>	就 <sub>九</sub>	尊 <sub>四</sub>	封 <sub>一</sub>	容 <sub>三</sub>	宗 <sub>一</sub>	就 <sub>九</sub>	尊 <sub>四</sub>	封 <sub>一</sub>
就 <sub>九</sub>	尊 <sub>四</sub>	封 <sub>一</sub>	容 <sub>三</sub>	宗 <sub>一</sub>	就 <sub>九</sub>	尊 <sub>四</sub>	封 <sub>一</sub>	容 <sub>三</sub>	宗 <sub>一</sub>	就 <sub>九</sub>	尊 <sub>四</sub>	封 <sub>一</sub>



殳	止	欠	木	月	日	无	死
			本	木	月	日	死
			東			早	死
死	正	次	枝	校	松	枯	林
			森	樣	枚	村	朝
殘	武	歌	机	板	柱	杖	杉
			業	桐	栗	材	橋
段	歲		橫	梨	櫻	札	桑
	歸		根	植	桃	梅	末
殿	步	此	梅	械	機	染	未
殺	止	止				服	曹
						日	更
			朱	構	果	案	期
							普
殊			查	檢	株	模	樹
			榮				
殆	歷	歎				條	東
		歡					一
殖			某	格	權	柔	栽
							朕

方	斤	斗	文	支	支	手	戶	戈	心	四	畫	卷二
方						手			思	心		卷三
												卷四
新	文	攻	打	持	指	扇	所	戶	急	後		卷五
斗	敵	敵	拾	折	拔				戰	愛	恩	忠
												卷六
族	料	數	教	拜	佛	握	承		我	息	志	念
旅				操					一	成	恐	
斬		故	散	敷	擊	損	授					必
旗					捕	招	招					必
		救	敬	改	支	才	掬		戒	怒	快	恥
		收	敏	放	收	二	換		或	悲	意	應
於	斜	整	政	敗	抱	掘	抵					息
					接							
斷					拓	探	舉		戲	悔	惜	懷
										愚	性	忌
					揮	掃	推			忍	慈	憂
					提	探	據			八	慶	憤











金	八畫	里西邑	走辰辛	車身足走
		郎		走足
釜金	重野里	進追近遠道通	軍輕車	
針銅	醬都	送遊	身	
鐵銀				
鏡	配郵	運退農	起	
	酒	適達		
銳錄	部	連返造	輪路越	
		週過		
	醫	選迎途	轉跡	
		込逃		
鑛錦	量		輪蹟	
	哩釀鄉	遺途遷	輔	
		遠速		
鍛	郡	逆比避辱	距	
		述邊		

亦	貝豕豆谷	言角見	七畫	而	衣行血	卷二
赤買賣貝		言見		西	行	卷三
	豆					卷四
負	谷	話讀角		表裏	蝶	卷五
貨貫象		記誰				卷六
債賊		講	親			卷七
員貧			觀			
財質		諸一討		要	術血	卷八
賴		謹八誤			衆	
		課	覽			
賜費		詩談		衣街		卷九
賞貯		試		袖		
販豚		誘許調		裁復		卷十
		計說		裂		
賢貴寶		詔訪		衛		卷十一
責替賀		詔訪				
賤買	豐	論詳識	解	裝衰		卷十二
貨資		訓				







計	齒	鼻鼠	黑	卷二
三四	十五畫	十四畫		卷三
五				卷四
六七			黑三	卷五
二二三				卷六
一四		鼻六	點六	卷七
一四				卷八
一七				卷九
一五	齒三	鼠四		卷十
一五				卷十一
一四		齡九		卷十二
一三				

### 第二節

#### 1、新出漢字讀替へ表取扱上の注意

○尋常小學校讀本の上欄に摘出せられたる新出漢字中傍線を施したるものを讀替文字といふのである。以前に新出漢字として一度教授したもので同じ字が讀方が違つて出たものである。文部省はつとめて多くの讀替を採る方針で編纂せられたといふ。

けれども單に傍線を見ただけでは、一度は習つた字であるといふことは分つても、何處で何と讀んで學んだものか分らぬばかりか何處讀替へたかも分らぬ。そんなことでは折角の周到な編纂者の意も活用ができないし、教授上の不便も多い譯である。

讀替へ表は

- (1)、何卷の何課で何と讀んだか。
- (2)、何處讀替へたか。
- (3)、將來何と讀替へて習ふか。
- (4)、讀替の有無。

といふ様な事が一目して分る。之が教授上種々の方面に活用が出来るのである。試に其の一二の例を示して見ると、

(1)の事項は讀替文字教授の際必ず繰返さるべき言葉であると思ふ。前に何と習つたか。何處であつたか。之が既有觀念の喚起で有益な記憶の助となるのであると思ふ。

(2)(3)(4)の事項を知つたら矢鱈の讀方を教へたり、徒らに多くの讀方を授けるやうの事もあるまいし是非教ふべき讀替への足らぬにも氣付であらう



兎に角此の表によつて讀替へばかりの復習をするも面白いし教師の周密な注意に兒童の好學心を起すことも出来る。

○連線附熟語といふのは二字連続して傍線を施したもので小豆を(あづき)紅葉を(もみぢ)とよむ場合に上欄に摘出して連線をつけたのである。注意しない豆をあづきのきと讀んだり紅を(もみ)と讀んだりするやうな事になる。かゝる言葉に振假名を付けしむるにも位置に注意を要する。

口、新出漢字讀替へ表

い、本表は各卷各課の新字の讀方、讀替へ字の讀方を付け、其の下に讀本中の諸所に於ける讀替へを付け漢字の數字で卷をあらはし算用數字で課を表した。

ろ、音便によつて讀方の異ふものは別に讀替へとしては摘出しない。讀本の意見に従つたのである。

馬を(ま)、舟を(ふな)、天を(あま)、酒を(さか)、風を(かざ)、と讀む類である。

8	7	6	5	3	2	1	課 卷	
木 <small>き</small>	口 <small>くち</small> 犬 <small>いぬ</small>	山 <small>やま</small> 川 <small>がは</small>	月 <small>つき</small>	大 <small>おほ</small> 小 <small>ちひ</small>	日 <small>ひ</small>	人 <small>ひと</small>	第 二 卷	
ほも	くこ	させ	ぐげ	たをせこ	かじに	じに		
くく	う	んん	わつつ	い う	つち	んん		
七五	七七	七八	二六	四十七三	二	四三		
ノノ	ノノ	ノノ	ノノ	ノノノノ	ノ	ノノ		
1719	134	10 23	2111	6 2618 2	12	24 4		
	11	10	9					
子 <small>こ</small>	水 <small>みづ</small> 火 <small>ひ</small>	中 <small>なか</small>	下 <small>した</small>		上 <small>うへ</small>		土 <small>つち</small>	
すし	すく	うち	もしげかおさくお		かのじあ		ごこ	
	あわ	ゆ	ろがたり		ぼやが			
		ちう	とも		みるうる			
七三	六六	五三	三九	八八	五五	四四	五九	
ノノ	ノノ	ノノ	ノノ	ノノ	ノノ	ノノ	ノノ	
21 5	11 11	18 5	1912 8 6	252423 2	25 17	24 6	1016	
2	課 卷	18	71	16	14	13	12	
小 <small>こ</small>	第 三 卷	本 <small>ほん</small>	太 <small>た</small> し	耳 <small>みみ</small> 目 <small>め</small>	白 <small>しろ</small> 米 <small>こめ</small>	天 <small>てん</small>	日 <small>ひ</small> 月 <small>つき</small>	
をせ		も	た	じも	はべ	ああ	ひ	
う		と	い	く	くい	まめ	げ	
十七		九	八三	士八	八十	十十	二六	
ノノ		ノ	ノノ	ノノ	ノノ	ノノ	ノノ	
2618 3		5	2424	12 25	11 13	2624	2 11 5	



23	22	21	20	18	
合貝	石魚青	色赤	早何	居思	虫又
が	いこせぎせ	しししせ	さい	きし	
ふ	はくきよ	よきくき	うづれ	よ	
五	七六五七九	九六七	七九	七九	
ノ	ノノノノノ	ノノノノ	ノノ	ノノ	
10	16 19 21 9	16 1 6 13	18 6	2 7	

	1	課	25	24	
高	村店町	第	知海毎	太衆門郎	買賣
か	そてち	四	ちかこ	たふらか	ばば
う	んんう	卷	いと	いしいご	いい
九	九九六		九六九	八二七	七
ノ	ノノノ		ノノノ	ノノノ	ノノ
22	21 5 3		12 1 7	24 17 20 12	3 4

	4	3	2	
雲	林去古	男	るり下	雨次長
う	りさこ	だな	もしげかおさくしう	つ
ん	んるへ	んん	ろがだ	ぎ
十	十八七九	九八	七九八八五	四二七
ノ	ノノノ	ノノ	ノノノノノノノノ	ノノノ
24	3 18 17 6	7 8	19 12 8 6 25 24 23 9 25	7 28 7

9	8	7	6	5	3
馬	力足牛	私手	上	子中	人
まば	つりりたそぎ	しし	かのじう	すこうな	じひ
	とよ	ゆ	ぼや	ちか	んど
	ひきくるくう		みるうへ		
九七	七九九七六八	七九	七八五四二	七二五二	四三
ノ	ノノノノノノ	ノノ	ノノノノノ	ノノノノ	ノノ
11 12	10 11 8 8 3 5	10 24	25 1 7 24 9	21 12 18 10	24 4

13	12	11	10	
見行	父光母	女入	田舟作竹	走
る	ちる	をんな	おる	る
まけあぎ	ふくぼ	めちに	しささち	そ
みよな	わう	よふん	うくく	う
ゆんんうひう				
七六十九八七	七七九	九八六十	七十八七	九
ノノノノノノ	ノノノ	ノノノノ	ノノノノ	ノ
7 12 24 9 25 1	13 24 21	7 8 24 25	7 11 7 1	10

17	16	15	14	
君年	北南西東	方左右	心出今	言
くと	ほなせさと	まかさうい	しすしこ	げごこ
んせ	くんいいう	さたう	んみつん	んんど
八七	八八七五五	七四七七	七六八	七七七
ノノ	ノノノノ	ノノノノ	ノノノノ	ノノノ
20 6	23 23 5 25 25	7 14 8 20 2	9 25 23 8	21 12 12



22	21	20	19			18		
朝 <small>あさ</small>	苦 <small>く</small> し	花 <small>はな</small> 羽 <small>はね</small> 枝 <small>えだ</small>	少 <small>すく</small> 校 <small>がう</small>	學 <small>がく</small> 松 <small>まつ</small> 風 <small>かぜ</small>	兄 <small>あに</small> 弟 <small>おとうと</small>	神 <small>かみ</small> 申 <small>まをす</small>		
あてし たう	くに がし	くうは しわ	せす くない	まな ぶ	ふ う	けて いいん	じ	
九七 ノノ	六四 ノノ	七 士四 ノノ	九四 ノノ	六 ノ	七 ノ	士 士 六 ノノノ		
23 2	13 21	10 25 24	5 17	25	17	24 24 12		

24	23				
下 <small>した</small>	上 <small>うへ</small>	扇 <small>あふぎ</small>	す下 <small>した</small>	友 <small>とも</small> 立 <small>た</small>	夜 <small>よる</small>
たおし ろり する	たか のぼ る	あう せ へん	もし げか おさ ろが り	おし いり り	や よ
五 四 二 ノノノ	士 八 五 ノノノ	三 二 十 ノノノ	士 九 八 八 ノノノノ	五 四 四 二 ノノノノ	九 十 士 ノノノ
25 2 9	25 1 7 6 9 1		19 12 8 1 25 24 2 9 8 26 9		13 20

1	課 卷	25	
御 <small>ご</small> 同 <small>どう</small> 戸 <small>と</small> 第 <small>だい</small>	第 五 卷	波 <small>なみ</small> 引 <small>ひ</small> 船 <small>ふね</small>	羽 <small>は</small> 人 <small>ひと</small> 名 <small>な</small>
みご おな じ		は せ ん	うは にひ みな もし げか
八 五 四 八 ノノノノ		士 五 ノ 19	士 四 三 二 六 四 士 九 八 八 ノノノノノノノノノノ
2 3 7 13		19	25 20 4 1 15 7 19 9 2 8 6

	8	7	6		5
枯 <small>か</small> 死 <small>し</small>	紙 <small>かみ</small> 細 <small>ほそ</small>	同 <small>どう</small> 次 <small>つぎ</small> 名 <small>な</small>	刀 <small>かたな</small> 時 <small>とき</small> 矢 <small>や</small> 弓 <small>ゆみ</small>	昔 <small>むかし</small>	雪 <small>ゆき</small>
るぬ こ	し さ い か	た じ め み や う い う	た じ う	せ じ や き く	そ せ く ぐ つ
士 ノ 5	七 八 七 ノノノ	五 四 四 六 ノノノノ	八 五 ノノ	十九 ノノ	士 八 ノノ
	9 2 22	1 2 24 15	24 14	20 23	4 23

12	11	10	9
外 <small>と</small>	内 <small>うち</small> 岩 <small>い</small>	物 <small>もの</small> 皆 <small>みな</small>	豆 <small>まめ</small> 麥 <small>むぎ</small> 正 <small>ただ</small> 夕 <small>ゆふ</small>
げ ほ ぐ だ な わ か い い い	ぶ も つ つ	せ た せ ゆ う い し き べ	生 <small>い</small> た し き う な せ や む ま い
八 七 七 八 七 ノノノノノ	六 五 ノノ	十 八 九 ノノノ	十 八 七 七 五 五 ノノノノノノ
2 12 9 15 3	12 14	8 6 16 23	4 1 9 1 17 16

17	15	14	13		
毛 <small>け</small>	少 <small>すく</small> 多 <small>おほ</small>	方 <small>かた</small> 所 <small>ところ</small> 字 <small>じ</small>	鳥 <small>とり</small> 品 <small>しな</small> 答 <small>こた</small>	肉 <small>にく</small> 問 <small>と</small>	
ま う う	い ない た た う し う	ま は し さ う よ	て ひ ご ふ ん う	も ん ん	は づ す
士 九 四 八 ノノノノ	十 ノ	士 三 六 ノノノ	七 六 七 ノノノ	七 ノ	十 ノ
27 5 19 3 10	17	7 15 12	10 20 4	4	4



10				9											
合	會	氣	升	實	後	考	役	使	前	釜	住				
あ	あ	あ	け	じ	こ	お	あ	の	か	わ	し	せ	じ	さ	
ふ	ふ			つ	う	る	ど	ち	う	き	ん	う	い		
三	十九	八		八	九	九	六	六	五	十	八	八	六	九	八
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
23	7	7	12	4	8	24	11	9	19	13	1	1	11	18	13

	13			12			11					
車	皇	姓	様	集	形	原	黒	蝶	種	葉	茶	土
く	わ	や	し	ぎ	け	か	げ	こ	し	ね	番	つ
る	う	う	ふ	う	いた	く			ゆ	ふ	ち	
ま	う	う	ふ	う	いた	く			ゆ	ふ	ち	
五	五	七	七	七	七	十	九		六	十	二	
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
5	3	21	2	27	3	6	10	15	10	2	8	

	15						14											
吉	暗	明	急	音	向	道	文	時	間	物	切							
よ	あ	め	み	い	お	ね	か	ご	も	と	け	ま	あ	ぶ	も	さ	せ	き
し	ん	い	う	ぐ	ん	う	う	ん	さ	ん	だ	つ	の	い	つ	る		
六	九	七	六	七	七	十	六	九	四	六	五	五	六	四	八	六	五	
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
1	16	24	12	5	20	8	18	20	5	6	12	14	4	12	11	13	16	8

4	3				2											
通	平	谷	國	鳥	御	金	皇	鳴	里	野	春	笑				
つか	へ	ひ	こ	こ	う	ぎ	み	お	か	く	め	り	や	し	せ	ぎ
う	う	い	い	く	よ	ん	ね	う	い							
七	六	八	五	七	六	七	八	五	五	五	十	七	八	九	八	八
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
15	1	17	19	15	27	2	2	1	19	13	19	23	26	9	9	2

	6			5			美			間			
池	寸	指	尺	丈	寺	重	兩	輕	車	島	美	間	
ゆ	し	た	じ	ち	へ	か	け	し	し	び	け	ま	
び	さ	け		ゆ	う	ね	い	や			ん	ん	
す				う	ね								
	七	十		五	六	七	八	六	九	五	八	六	五
	ノ	ノ		ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
	19	3		24	12	10	24	5	8	14	22	12	14

	8						7										
切	取	待	持	用	上	流	蟲	鯉	祝	食	長	枚					
せ	き	し	た	じ	も	か	じ	あ	う	り	ち	し	く	し	ご	な	
つ	つ	ゆ	い	ふ	み	う	る	へ	う	う	う	し	く	ら	よ	し	
六	五	七	八	六	六	八	四	三	二	九	十	十	九	七	七	三	四
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
16	14	18	6	16	16	1	24	6	9	6	14	16	1	9	28	2	



		22					21					
鹿	晩客	面	着	い	新	宮	森	表	話	書	裏	習
ろ	た	お	ち	つ	あ	に	し	ぐ	き	し	あ	へ
く	そ	も	や	ら	ゆ						は	わ
	し	て	も	く	く	た	い	ん	う	う	す	う
十	三	十	七	六	六	九	七	八	七	十	三	七
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
26	24	15	21	24	24	18	11	17	1	3	4	21

		24			23					
城	軍	攻	暮	分	守	追	強	角	匹	弱
じ	い	ち	こ	あ	ぶ	ぶ	し	つ	し	か
や	く	よ	う	う	ん	ゆ	ふ	う	み	ご
う	さ	う	う				わ	ふ	う	み
七	十	五	九	八	六	六	八	七	七	八
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
17	16	6	7	2	6	5	26	9	2	7

		25											
橋	岸	景	す下							進	聞	西	東
け	き	杉	も	し	け	か	た	さ	く	お	し	し	ぶ
う	し	咲	ろ	か	だ	り							せ
九	七	峯	と	も	す	る	す	る	た	ん	ん	い	し
ノ	ノ		三	九	八	八	五	四	四	四	二	八	七
6	22		19	2	8	6	20	24	23	2	9	24	14

第六卷

17				16			
生	半	廣	他	生	顔	足	先
き	う	せ	い	な	た	し	き
う	へ	た	く	や	が	た	あ
む	い	き	い	ま	ひ	う	む
七	七	五	四	五	七	八	五
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
9	1	6	9	1	4	10	17

		18					
後	打	炭	炭	中	勝	勝	空
ご	あ	う	だ	ち	な	す	か
し	ろ	み	ん	ゆ	ぐ	ぐ	よ
				う	か	る	つ
六	五	五	七	五	九	五	九
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
11	9	9	2	19	19	5	10

		20		19						
讀	夜	秋	鈴	石	金	地	油	油	船	木
と	や	よ	し	い	こ	い	き	あ	ゆ	ふ
く				は	く	し	ん	ら	ね	く
九	十	四	九	七	六	三	五	五	五	三
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
27	4	22	9	1	6	22	3	19	19	25



9	事 <small>こと</small> 殘 <small>のこ</small> 貨 <small>のり</small> 主 <small>しゅ</small> 直 <small>なほ</small>	8	遊 <small>あそ</small> 附 <small>つ</small> 命 <small>いのち</small>
つじ	ざ 誰 <small>たれ</small> れあぬちたすぢね	せ 針 <small>はり</small> ど	ゆ ふ め
か	ん もじしくちにか	ん 鉄 <small>てつ</small> う	う い
七	十九七九九九六七	六 銅 <small>どう</small> 六	九 九 七
ノ	ノノノノノノノノ	ノ ノ	ノ ノ ノ
145	12 4 23 12 27 21 10 9 4	9 釘 <small>くわ</small> 9	27 16 18

記 <small>き</small>	10	後 <small>あと</small> 直 <small>ち</small> 錢 <small>せん</small> 銅 <small>どう</small>
し	木 <small>き</small> 如 <small>ごと</small> 麻 <small>あさ</small> 綿 <small>わた</small> 絹 <small>ぬい</small> 織 <small>お</small>	こ お ぐ の う (本課にあり) せ あ
る	こ ぼ も き し め け し	く ち ろ ち ろ に が ね
す	く く く ん ん き	う る ち ろ ち ろ 六 六
十	九七五二九 八 三 三	九 九 六 五 五 六 六
ノ	ノノノノノノノノ	ノノノノノノノノ
10	16 17 19 8 17 18 19 2	8 16 11 19 9 8 8

精 <small>せい</small> 昨 <small>きのう</small>	11	後 <small>あと</small> 着 <small>つ</small> 前 <small>まえ</small> 水 <small>みづ</small> 火 <small>か</small> 月 <small>つき</small> 塩 <small>しほ</small> 都 <small>みやこ</small> 氷 <small>こおり</small> 曜 <small>あかり</small>
せ 所 <small>ところ</small>	お ころ の う ち き ま み ひ ぐ ね つ み ひ 京 <small>みやこ</small>	く し や へ づ つ ん こ う 午 <small>ひる</small>
い 堂 <small>どう</small>	る う ち ろ く へ づ つ ん こ う 午 <small>ひる</small>	
九	九 九 六 五 五 六 五 五 二 二 二 十 八 六 八	
ノ	ノノノノノノノノノノノノノノノノノノ	
17	24 9 19 9 24 22 9 11 11 12 20 19 24 23	

2	1
暑 <small>あつ</small> 初 <small>はつ</small> 寒 <small>さむ</small> 終 <small>はつ</small> 季 <small>き</small>	通 <small>とほ</small> 海 <small>うみ</small> 夏 <small>なつ</small> 砂 <small>すな</small> 吉 <small>きち</small> 色 <small>いろ</small> 冬 <small>ふゆ</small>
し ろ は し か し つ	つ とう か し さ き し い と
よ る つ よ ん う い	ほ ろ う る み や ち く ろ う
十 二 九 九 八 九 九	七 五 三 十 十 六 五 九 三 二
ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ	ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ
20 1 10 10 23 2 10	15 4 25 20 3 16 16 16 2 1 9

4	3
加 <small>くわ</small> 涼 <small>すず</small> 晴 <small>は</small> 列 <small>れつ</small> 暖 <small>あたた</small>	足 <small>あし</small> 眠 <small>ねむ</small> 草 <small>くさ</small> 社 <small>やしろ</small> 町 <small>ちやう</small> 遠 <small>とほ</small> 別 <small>わか</small> 渡 <small>わた</small> 家 <small>いへ</small>
か り せ 曇 <small>くも</small> だ	た あ み さ し ま と わ と け か
う い ん	る じ ん う や ち し れ
八 九 三 三	七 三 三 七 六 四 五 九 十 十 七
ノ ノ ノ ノ	ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ
26 23 4 17	8 8 24 6 15 1 16 23 10 15 3

7	6	5
投 <small>な</small> 代 <small>か</small> 象 <small>ざう</small>	石 <small>いし</small> 分 <small>ぶん</small> 貫 <small>くわん</small> 倍 <small>ばい</small>	重 <small>かさ</small> 全 <small>ぜん</small> 分 <small>ぶん</small> 梢 <small>しやう</small>
と よ だ し や	い せ い ぶ わ つ ら ね ぐ	へ ち ら せ ぶ わ 刈 <small>かり</small> ま せ
う いう	は き し ん る 斗 <small>と</small>	ゆ も る 俵 <small>はたけ</small> づ ん
三 八 七 三	二 五 三 六 五 三	八 七 五 八 六 五
ノ ノ ノ ノ	ノ ノ ノ ノ ノ の	ノ ノ ノ ノ ノ ノ
18 1 2 4	1 19 2 5 24 27	4 10 5 20 6 24 19 16



20	19	18	
道品板材 みしは栗 ちなん柱 五四七桐 ノノノノ 15 13 24	肩爪皮熊 けさひ んう 八三八 ノノノ 24 17 20	拾泣妹姉吹 じきまし涙 ふふい 九三二二 ノノノノ 22 2 12 12	送味 そあ うち 九六 ノノ 5 16

	22	21
場積帆港 ちせはか ようきんう 七士六士 ノノノノ 1 9 23 8	歌勞工 かいたつこ いたはるれう 九十九六 ノノノノ 23 23 17 24	善供度悪筆机 せくきたごにああひ墨 んうくむくしつ 九十九八六三九六士 ノノノノノノノノノノ 27 24 10 9 15 10 16 25 18

24	23
着工發市業入都民商 つきくほいわいつどみ堀 くつらざるん 六五六九七十三八六七 ノノノノノノノノノノ 11 22 22 14 16 9 11 19 11 2	出停煙和帆 すでいねやはほ あるでんら 士三五九十六 ノノノノノノノノノノ 25 14 8 20 3 23

13	12
苦井病樂身敵 にくせびがたし杖 がるやの いしいうくしん 四四士六士九八 ノノノノノノノノ 27 27 9 15 6 4 2	神明寺間所物見 かめあてまかあと みいしらんだろつゆ 四七五五五五五四五四三三 ノノノノノノノノノノノノノノノノ 18 24 5 6 14 14 4 14 14 11 7 13

	14
王兵盛戰 ひせもせ よういるん 九十九七 ノノノノ 8 13 1 1	仕將組百仕乗 つはそもしじふし かたもようちやひ 六士士士六六七七十 ノノノノノノノノノノノノ 14 17 2 6 14 26 6 7 15 26

17	16	15
扱受相種切用砂味糖 陣じさたささまよしすみ替 ゆううねいつるうやな菓 十士九五八五五五十六六 ノノノノノノノノノノノノノノノノ 12 25 17 11 13 14 8 8 3 1 17	社國名度 やくめなた ろにいくび 六五四四八六 ノノノノノノノノノノノノノノノノ 3 3 27 7 9 20	



6	5					直
藤 承 似 以 安	急 存 西 事 願 節 宿	直				
と う し や	あ き さ し つ こ ぐ ふ し	ち た す な ち				
う け う	ん ふ 洋 類	よ ぶ				
六 三 九	八 五	く ち ぐ ほ き				
ノ ノ ノ	ノ	九 九 九 六 六				
14 121	13 15	ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ				
		272110 9 9				

7		草 親				
夫 官 握	強 心 書 者 由 自 消 江 魁	草 親				
を 農 握	し つ こ か も よ	く し た				
と 感 握	ふ し ろ く の し	さ ひ や				
七 十	二 五 三 五 六 九 九 八 十 九 十 十	六 八 七				
ノ ノ	ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ	ノ ノ ノ				
12 12	2 23 14 21 14 13 9 25 16 10 8 12	ノ ノ ノ 3 15 2				

9	8					
登 養 産 破 包	頭 卵 絲 蠶	音 足 左 程				
か ひ こ	や し な ぶ ん	た た そ あ ひ て				
	さ は は	ん と く し り い				
七 八 八 十 十	十 十 八 七 七 八 七	三 五 六 三 三 九				
ノ ノ ノ ノ	ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ	ノ ノ ノ ノ ノ ノ				
9 6 7 18 2	22 15 12 18 9 26 9	20 15 3 8 15 11				

1	課 卷	25
生 場 戦 教 起 孝 汝 歳	第 七 卷	學 惡 飲 忠
な せ い ば	た け き 賊 な ど	が に あ わ い 義
ま い き	う 我 せ	く む く い ん 恩
五 五 四 六 六 十 十 室 九 九	ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ	四 三 九 六 九 愛
ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ	ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ	ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ
17 16 9 23 15 16 16 4 26		19 10 16 2 14 祖

2	代 居 退 反 朝 民 親 万 氏					行 む
よ か を ゐ の た き	あ あ た し し 不 し も	あ さ ね ゆ た し さ				
は り る	く い ふ た さ み ひ ん 召 す	や な く い う				
八 六 三 九 八 三 九 四 六 八 七	ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ	十 九 八 三 十 八 七				
ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ	ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ	ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ				
1 7 18 21 24 9 23 22 24 15 6		24 9 24 13 4 1 9				

4	3					
答 屋 賣 問 御 現	降 末 桑 内 祭 動 榮	顔				
こ お う と 段	か く ま だ う さ ざ さ	か				
た ふ く る ふ	う す つ い ち い う い	ほ				
四 十 三 四 十	九 八 十 八 四 八 七 十	五				
ノ ノ ノ ノ ノ	ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ	ノ ノ ノ ノ ノ				
13 12 23 13 11	2 1 25 15 12 1 16 16	16				



	16					15							
奉 <sup>たてまつ</sup> る	動 <sup>どう</sup>	市 <sup>し</sup>	雷 <sup>かみなり</sup>	觀 <sup>くわん</sup>	公 <sup>こう</sup>	電 <sup>でん</sup>	通 <sup>つう</sup>	便 <sup>びん</sup>	眞 <sup>しん</sup>	寫 <sup>うつ</sup>	今 <sup>こん</sup>	差 <sup>さ</sup>	郵 <sup>ゆう</sup>
ほ	う	し	ら	み	ね	園 <sup>えん</sup>	か	た	べ	ま	し	い	さ
う	ご	く	い	る	ほ	博 <sup>はく</sup>	よ	ほ	よ	ふ	る	ん	や
入 <sup>い</sup>	七	六	七	七	三	岡 <sup>おか</sup>	六	五	七	七	七	八	三
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	拜 <sup>はい</sup>	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
10	3	24	8	25	10	拜	1	4	25	11	3	4	14

	17											
知 <sup>ち</sup>	骨 <sup>ほね</sup>	猫 <sup>ねこ</sup>	風 <sup>かぜ</sup>	木 <sup>き</sup>	古 <sup>こ</sup>	城 <sup>じやう</sup>	宮 <sup>みや</sup>	像 <sup>ざう</sup>	墓 <sup>ぼ</sup>	坂 <sup>さか</sup>	省 <sup>しやう</sup>	運 <sup>うん</sup>
た	こ	羊 <sup>ひつじ</sup>	か	こ	も	さ	い	ふ	し	ぐ	み	ぼ
ん	つ	狐 <sup>きつね</sup>	せ	く	へ	い	ろ	う	や	ん	み	く
七	十	鼻 <sup>はな</sup>	四	九	五	二	九	四	五	八	五	十
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
12	22	ノ	19	16	19	8	6	4	25	1	22	10

	19					18					
酒 <sup>さけ</sup>	活 <sup>かつ</sup>	冷 <sup>れい</sup>	汁 <sup>じゆ</sup>	數 <sup>すう</sup>	頭 <sup>かぶ</sup>	命 <sup>いのち</sup>	小 <sup>せう</sup>	旅 <sup>たび</sup>	藥 <sup>やく</sup>	通 <sup>とほ</sup>	尾 <sup>び</sup>
し	い	ひ	洗 <sup>あ</sup>	か	づ	か	あ	い	を	こ	ち
ゆ	き	ゆ	ふ	す	う	ら	ま	ち	の	ち	り
十	十	九	七	七	七	八	七	六	十	三	二
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
16	9	12	19	13	22	15	12	9	7	26	2

	10					外 <sup>がい</sup>					生 <sup>せい</sup>					卵 <sup>らん</sup>				
勸 <sup>かん</sup>	山 <sup>さん</sup>	鳥 <sup>とり</sup>	花 <sup>はな</sup>	重 <sup>おも</sup>	皿 <sup>ざら</sup>	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	
す	や	と	は	へ	か	お	焼 <sup>や</sup>	は	げ	ほ	そ	た	し	う	な	せ	い	た		
す	ま	り	な	ね	い	塗 <sup>ぬ</sup>	す	か	ど	い	う	む	ま	い	き	ご	ご	ご		
入 <sup>い</sup>	二	四	四	八	六	五	十	八	七	四	十	八	七	五	五	四	七	七		
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ		
2	6	13	20	24	5	5	4	2	2	1	2	4	1	1	1	7	16			

	12										11				
馬 <sup>ば</sup>	夫 <sup>と</sup>	言 <sup>こと</sup>	殘 <sup>ざん</sup>	主 <sup>しゅ</sup>	世 <sup>せい</sup>	志 <sup>し</sup>	貧 <sup>ひん</sup>	妻 <sup>つま</sup>	利 <sup>り</sup>	便 <sup>べん</sup>	割 <sup>わり</sup>	繪 <sup>えい</sup>			
う	ふ	け	ご	い	の	た	あ	し	よ	し	ひ	念 <sup>ねん</sup>			
ま	ん	ん	ふ	り	も	じ	ゆ	ん	鏡 <sup>かがみ</sup>	く	る	ん			
三	七	十	七	三	六	十	九	六	七	八	十	禮 <sup>らい</sup>			
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ			
9	8	21	12	13	9	4	23	9	14	15	13	27			

	14					13					言 <sup>こと</sup> (本課にあり)	
聞 <sup>き</sup>	新 <sup>しん</sup>	世 <sup>せい</sup>	印 <sup>いん</sup>	等 <sup>とう</sup>	易 <sup>い</sup>	障 <sup>しょう</sup>	父 <sup>ちち</sup>	數 <sup>かず</sup>	櫻 <sup>おう</sup>	梅 <sup>うめ</sup>		紋 <sup>もん</sup>
き	あ	に	せ	ひ	と	な	ね	さ	は	り		ち
く	た	い	い	し	う	ご	き	り	ち	う		う
五	十	九	五	七	十	八	三	九	三	七		七
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	
25	18	1	22	12	1	12	14	10	12	18	7	



26							25						
九	沈	總	乘	聲	片	坐	砲	便	雨	角	聲	燈	暴
ま	し	ふ	す	の	こ	か	す	福	び	べ	あ	す	か
る	む	さ	て	る	ゑ	た	る	爆	ん	ん	め	み	ど
六	七	七	六	七	九	八	點	七	七	四	十	八	五
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
14	21	3	24	14	25	23	7	雙	15	11	2	4	13

1														課 卷 第 八 卷
授	殺	祭	上	生	宮	造	諸	勅	式	勅	式	勅	式	
と	や	ま	ま	の	じ	あ	う	お	さ	う	な	せ	い	
ゆ	く	り	る	る	へ	ひ	む	ま	い	さ	う	や	う	
八	五	七	七	五	四	三	二	十	七	七	五	五	四	
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	
5	9	3	25	7	24	6	9	4	9	11	7	16	9	

2							2						
外	右	御	質	旗	平	使	降	代	告	殿	平	使	降
は	は	ぐ	そ	み	う	ぎ	お	ご	お	老	き	ひ	た
す	か	い	と	ぎ	よ	ん	製	い	ら	ふ	う	る	い
十	七	七	四	三	七	八	六	五	五	垣	八	五	五
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
4	21	9	12	15	20	2	3	3	1	24	17	4	9

21				20				20						
様	魚	植	鯨	玉	泥	沈	登	有	來	植	桃	冷	浴	湯
さ	う	う	げ	ぎ	横	ち	ま	い	き	し	梨	ひ	れ	ゆ
ま	を	う	い	く	珠	ん	ら	う	る	く	佐	ゆ	い	み
五	三	七	十	十	陸	七	八	八	三	七	九	七	七	九
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
13	22	20	18	19	26	4	13	24	21	12	19	6	12	

22														
精	岸	紅	淺	細	浮	根	綠	肥	深	長	外	精	岸	紅
お	が	く	こ	さ	ほ	こ	り	こ	し	お	げ	は	そ	は
も	ん	れ	な	い	そ	ん	く	ゆ	ん	も	わ	わ	お	は
て	ん	ひ	う	い	い	ん	く	ゆ	ん	て	い	す	と	と
六	三	八	八	八	四	九	八	七	七	五	八	七	十	四
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
1	11	9	11	2	8	20	3	11	24	19	21	2	9	4

21														23											
光	總	萬	体	歸	板	明	甲	操	治	航	里	定	成	光	總	萬	体	歸	板	明	甲	操	治	航	
ひ	ふ	そ	よ	て	か	さ	い	み	あ	か	あ	を	員	さ	て	せ	ひ	ふ	そ	よ	て	か	さ	い	み
り	さ	う	づ	い	だ	た	う	し	ふ	る	む	艦	と	い	い	り	さ	う	づ	い	だ	た	う	し	ふ
三	九	七	十	十	三	八	六	六	五	九	十	十	五	九	九	三	九	七	十	十	三	八	六	六	五
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
12	3	26	5	11	20	22	20	12	15	24	6	14	2	18	10	12	3	26	5	11	20	22	20	12	15







19					18								
鍛 <small>鍛</small>	看 <small>看</small>	熱 <small>熱</small>	都 <small>都</small>	僅 <small>僅</small>	孫 <small>孫</small>	謹 <small>謹</small>	機 <small>機</small>	綿 <small>綿</small>	布 <small>布</small>	藍 <small>藍</small>	染 <small>染</small>	械 <small>械</small>	去 <small>去</small>
で	あ	み	と	き	そ	き	き	わ	し	ふ	せ	蒔 <small>蒔</small>	き
ん	し	こ	ん	ん	ん	ん	た	く			ん	熟 <small>熟</small>	よ
八六五	十	六	六	三	九	十	八	六	八	八	三	紺 <small>紺</small>	四
ノノノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
1 4 15	2	2	11	2	1	25	18	10	2	4	23	22	4

21			20											
甚 <small>甚</small>	歩 <small>歩</small>	牙 <small>牙</small>	擊 <small>擊</small>	虎 <small>虎</small>	自 <small>自</small>	君 <small>君</small>	報 <small>報</small>	誤 <small>誤</small>	止 <small>止</small>	招 <small>招</small>	全 <small>全</small>	皮 <small>皮</small>	血 <small>血</small>	胃 <small>胃</small>
だ	ぶ	ほ	が	げ	こ	お	じ	は	ご	し	と	ま	か	け
舌		き				み	う	め	う	く	わ	つ	密	
七	九	三	八	三	九	七	三	八	三	三	九	八	六	六
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
27	8	17	24	10	9	7	17	14	12	4	16	5	19	27

22														
反 <small>反</small>	球 <small>球</small>	歸 <small>歸</small>	美 <small>美</small>	越 <small>越</small>	隣 <small>隣</small>	首 <small>首</small>	富 <small>富</small>	術 <small>術</small>	界 <small>界</small>	獸 <small>獸</small>	捕 <small>捕</small>	曲 <small>曲</small>	獸 <small>獸</small>	運 <small>運</small>
か	た	か	う	ね	と	く	ふ	部	帝	け	ほ	く	き	じ
へ	す	へ	る	し	つ	り	び	領	衆	も	の	せ	く	う
七	九	七	五	一	八	八	八	府	藝	八	十	八	十	七
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
25	5	24	4	4	8	16	26	21	18	15	14	21	7	17

13									
切 <small>切</small>	戸 <small>戸</small>	安 <small>安</small>	夜 <small>夜</small>	角 <small>角</small>	無 <small>無</small>	勢 <small>勢</small>	吳 <small>吳</small>	散 <small>散</small>	樂 <small>樂</small>
せ	き	き	と	や	よ	よ	す	か	つ
つ	つ	る	み	く	の	い	録	ん	く
六	五	五	七	五	四	七	五	九	九
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
16	14	8	1	6	20	22	4	25	23

15						14						
即 <small>即</small>	位 <small>位</small>	殺 <small>殺</small>	殺 <small>殺</small>	侍 <small>侍</small>	以 <small>以</small>	未 <small>未</small>	共 <small>共</small>	頼 <small>頼</small>	信 <small>信</small>	報 <small>報</small>	多 <small>多</small>	有 <small>有</small>
そ	つ	わ	さ	こ	ふ	こ	は	い	み	功	き	よ
く	く	つ	る	る	る	る	る	る	る	討	つ	ら
三	九	十	八	八	十	九	十	九	十	十	三	八
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
28	1	15	15	4	10	5	5	7	16	27	10	20

17		16												
機 <small>機</small>	連 <small>連</small>	浦 <small>浦</small>	湖 <small>湖</small>	圓 <small>圓</small>	必 <small>必</small>	最 <small>最</small>	銳 <small>銳</small>	併 <small>併</small>	首 <small>首</small>	鶴 <small>鶴</small>	候 <small>候</small>	内 <small>内</small>	志 <small>志</small>	親 <small>親</small>
は	れ	こ	ね	か	さ	ね	あ	し	座	さ	ふ	な	う	た
た	ん		ん	ら	い	い	は	せ	ゆ	ふ		い	ち	や
八	九	九	八	八	九	三	九	八	九	九	七	四	七	七
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
18	11	12	12	8	10	2	27	23	5	3	12	12	2	6



改め	器	第	九	卷	26	望	増	著	益	富	野	開	加	旅	守	路	絲
か	う	つ	は	十	十	望	増	著	益	富	野	開	加	旅	守	路	絲
い	は	十	十	十	十	望	増	著	益	富	野	開	加	旅	守	路	絲
13	19	9	4	3	24	18	4	9	2	22	3	20	6	11			

勢	是	至	滅	勸	遂	叛	劍	孫	食	盜	即	常	劍	娘			
い	せ	し	め	か	と	は	つ	ま	し	く	せ	さ	す	そ	じ	け	婦
き	ほ	い	つ	ん	ぐ	ん	ぎ	ご	く	ふ	い	ん	ち	く	う	ん	
八	九	十	八	七	十	九	九	八	七	五	十	六	八	十	九	九	
13	24	25	24	11	16	18	1	19	9	7	13	15	15	28	21	1	

本	倒	註	樂	庭	舞	形	總	根	變	離	揃	降	
ほ	い	状	が	ら	て	ぎ	か	そ	す	ね	へ	り	亦
ん	る	期	く	く	い	や	た	べ	う	ち	う	て	ん
二	九	啓	十	六	十	三	七	七	七	七	七	九	十
18	23	6	13	19	27	12	26	24	22	11	1	2	3

新	隊	譽	節	雪	寒	南	極	半	川	氷	布	北	眼	能						
さ	曹	ほ	せ	そ	ゆ	さ	み	き	ご	な	か	こ	し	ぬ	き	が	の	よ		
ん	ま	れ	と	く	さ	み	な	は	め	て	く	ば	は	り	く	の	た	ん	う	く
七	十	四	六	三	十	十	十	十	二	六	八	八	三	十	十	九				
26	14	5	4	5	2	16	14	6	13	6	11	24	18	16	2	3	8			

撃	太	占	傷	彈	任	却	旗	重	進	倒	滅	堅	陸					
う	た	ふ	し	し	は	ひ	ま	か	は	ち	か	た	す	さ	ほ	け		
つ	し	む	う	く	く	す	て	た	う	ね	い	む	ま	さ	か	ぼ	す	ん
八	三	二	十	八	三	十	十	八	八	七	六	五	五	九	九	十		
21	21	7	9	25	27	20	13	5	2	10	5	25	12	2	21			

課	傷	絶	突	行	目	勇	銃	丁	胸	肩	刀	退	布				
さ	き	せ	つ	あ	き	ゆ	め	い	付	ち	き	か	か	の	し	ふ	ぬ
づ	つ	く	ん	う	く	む	う	う	う	う	う	た	な	く	く	の	
八	十	十	十	九	三	二	九	十	十	六	四	九	七	八	八		
24	19	18	24	3	13	16	14	15	21	19	6	21	2	23	18		







17												
空 <sup>く</sup> 寝 <sup>い</sup> 如 <sup>し</sup> 清 <sup>せい</sup> 勞 <sup>つ</sup> 相 <sup>さ</sup> 衣 <sup>い</sup> 潔 <sup>じ</sup> 法 <sup>ほう</sup> 保 <sup>たも</sup> 惡 <sup>あ</sup> 木 <sup>こ</sup> 暗 <sup>あん</sup>	空 <sup>く</sup> 寝 <sup>い</sup> 如 <sup>し</sup> 清 <sup>せい</sup> 勞 <sup>つ</sup> 相 <sup>さ</sup> 衣 <sup>い</sup> 潔 <sup>じ</sup> 法 <sup>ほう</sup> 保 <sup>たも</sup> 惡 <sup>あ</sup> 木 <sup>こ</sup> 暗 <sup>あん</sup>	空 <sup>く</sup> 寝 <sup>い</sup> 如 <sup>し</sup> 清 <sup>せい</sup> 勞 <sup>つ</sup> 相 <sup>さ</sup> 衣 <sup>い</sup> 潔 <sup>じ</sup> 法 <sup>ほう</sup> 保 <sup>たも</sup> 惡 <sup>あ</sup> 木 <sup>こ</sup> 暗 <sup>あん</sup>	空 <sup>く</sup> 寝 <sup>い</sup> 如 <sup>し</sup> 清 <sup>せい</sup> 勞 <sup>つ</sup> 相 <sup>さ</sup> 衣 <sup>い</sup> 潔 <sup>じ</sup> 法 <sup>ほう</sup> 保 <sup>たも</sup> 惡 <sup>あ</sup> 木 <sup>こ</sup> 暗 <sup>あん</sup>	空 <sup>く</sup> 寝 <sup>い</sup> 如 <sup>し</sup> 清 <sup>せい</sup> 勞 <sup>つ</sup> 相 <sup>さ</sup> 衣 <sup>い</sup> 潔 <sup>じ</sup> 法 <sup>ほう</sup> 保 <sup>たも</sup> 惡 <sup>あ</sup> 木 <sup>こ</sup> 暗 <sup>あん</sup>	空 <sup>く</sup> 寝 <sup>い</sup> 如 <sup>し</sup> 清 <sup>せい</sup> 勞 <sup>つ</sup> 相 <sup>さ</sup> 衣 <sup>い</sup> 潔 <sup>じ</sup> 法 <sup>ほう</sup> 保 <sup>たも</sup> 惡 <sup>あ</sup> 木 <sup>こ</sup> 暗 <sup>あん</sup>	空 <sup>く</sup> 寝 <sup>い</sup> 如 <sup>し</sup> 清 <sup>せい</sup> 勞 <sup>つ</sup> 相 <sup>さ</sup> 衣 <sup>い</sup> 潔 <sup>じ</sup> 法 <sup>ほう</sup> 保 <sup>たも</sup> 惡 <sup>あ</sup> 木 <sup>こ</sup> 暗 <sup>あん</sup>	空 <sup>く</sup> 寝 <sup>い</sup> 如 <sup>し</sup> 清 <sup>せい</sup> 勞 <sup>つ</sup> 相 <sup>さ</sup> 衣 <sup>い</sup> 潔 <sup>じ</sup> 法 <sup>ほう</sup> 保 <sup>たも</sup> 惡 <sup>あ</sup> 木 <sup>こ</sup> 暗 <sup>あん</sup>	空 <sup>く</sup> 寝 <sup>い</sup> 如 <sup>し</sup> 清 <sup>せい</sup> 勞 <sup>つ</sup> 相 <sup>さ</sup> 衣 <sup>い</sup> 潔 <sup>じ</sup> 法 <sup>ほう</sup> 保 <sup>たも</sup> 惡 <sup>あ</sup> 木 <sup>こ</sup> 暗 <sup>あん</sup>	空 <sup>く</sup> 寝 <sup>い</sup> 如 <sup>し</sup> 清 <sup>せい</sup> 勞 <sup>つ</sup> 相 <sup>さ</sup> 衣 <sup>い</sup> 潔 <sup>じ</sup> 法 <sup>ほう</sup> 保 <sup>たも</sup> 惡 <sup>あ</sup> 木 <sup>こ</sup> 暗 <sup>あん</sup>			
むそし な しらん	ご と し	き いた よる	ろ や う	あ ろ う	こ ろ ひも	い ま ま よ く	害 <sup>がい</sup> 害 <sup>がい</sup> 害 <sup>がい</sup>	ほ く む	にあわ る しい	ぼ も く	も き く	くら らし
九六十六 ノノノ	六十六 ノノノ	六十六 ノノノ	六十六 ノノノ	六十六 ノノノ	六十六 ノノノ	六十六 ノノノ	六十六 ノノノ	六十六 ノノノ	六十六 ノノノ	六十六 ノノノ	六十六 ノノノ	六十六 ノノノ
141816	10	12	23	22	25	17	26	3	1	16	10	25

19					18					注 <sup>ちゆ</sup>						
吸 <sup>き</sup> 吸 <sup>く</sup> 給 <sup>き</sup> 試 <sup>し</sup> 呼 <sup>こ</sup> 燈 <sup>とう</sup> 供 <sup>き</sup> 防 <sup>ふ</sup> 在 <sup>ざい</sup>	吸 <sup>き</sup> 吸 <sup>く</sup> 給 <sup>き</sup> 試 <sup>し</sup> 呼 <sup>こ</sup> 燈 <sup>とう</sup> 供 <sup>き</sup> 防 <sup>ふ</sup> 在 <sup>ざい</sup>	吸 <sup>き</sup> 吸 <sup>く</sup> 給 <sup>き</sup> 試 <sup>し</sup> 呼 <sup>こ</sup> 燈 <sup>とう</sup> 供 <sup>き</sup> 防 <sup>ふ</sup> 在 <sup>ざい</sup>	吸 <sup>き</sup> 吸 <sup>く</sup> 給 <sup>き</sup> 試 <sup>し</sup> 呼 <sup>こ</sup> 燈 <sup>とう</sup> 供 <sup>き</sup> 防 <sup>ふ</sup> 在 <sup>ざい</sup>	吸 <sup>き</sup> 吸 <sup>く</sup> 給 <sup>き</sup> 試 <sup>し</sup> 呼 <sup>こ</sup> 燈 <sup>とう</sup> 供 <sup>き</sup> 防 <sup>ふ</sup> 在 <sup>ざい</sup>	定 <sup>てい</sup> 叛 <sup>はん</sup> 厚 <sup>こう</sup> 征 <sup>せい</sup> 住 <sup>じゆう</sup>	定 <sup>てい</sup> 叛 <sup>はん</sup> 厚 <sup>こう</sup> 征 <sup>せい</sup> 住 <sup>じゆう</sup>	定 <sup>てい</sup> 叛 <sup>はん</sup> 厚 <sup>こう</sup> 征 <sup>せい</sup> 住 <sup>じゆう</sup>	定 <sup>てい</sup> 叛 <sup>はん</sup> 厚 <sup>こう</sup> 征 <sup>せい</sup> 住 <sup>じゆう</sup>	定 <sup>てい</sup> 叛 <sup>はん</sup> 厚 <sup>こう</sup> 征 <sup>せい</sup> 住 <sup>じゆう</sup>	定 <sup>てい</sup> 叛 <sup>はん</sup> 厚 <sup>こう</sup> 征 <sup>せい</sup> 住 <sup>じゆう</sup>	注 <sup>ちゆ</sup>					
す ふ	き ふ	た ふ	た ふ	よ し	と び	く もう	ど う	ぼ う	お すり	あ む	さ む	そ む	こ う	威 <sup>い</sup> 怒 <sup>ど</sup> る	す む	ち ゆ
九 ノ	九 ノ	八 ノ	十 ノ	八 ノ	七 ノ	十六 ノ	九 ノ	三 ノ	九 ノ	七 ノ	九 ノ	十 ノ	十 ノ	五 ノ	九 ノ	六 ノ
19	19	6	10	3	25	24	21	8	23	23	2	12	9	6		

20																
防 <sup>ぼう</sup> 村 <sup>そん</sup> 終 <sup>しゆう</sup> 讀 <sup>どく</sup> 知 <sup>ち</sup> 常 <sup>じやう</sup> 連 <sup>れん</sup>	防 <sup>ぼう</sup> 村 <sup>そん</sup> 終 <sup>しゆう</sup> 讀 <sup>どく</sup> 知 <sup>ち</sup> 常 <sup>じやう</sup> 連 <sup>れん</sup>	防 <sup>ぼう</sup> 村 <sup>そん</sup> 終 <sup>しゆう</sup> 讀 <sup>どく</sup> 知 <sup>ち</sup> 常 <sup>じやう</sup> 連 <sup>れん</sup>	防 <sup>ぼう</sup> 村 <sup>そん</sup> 終 <sup>しゆう</sup> 讀 <sup>どく</sup> 知 <sup>ち</sup> 常 <sup>じやう</sup> 連 <sup>れん</sup>	防 <sup>ぼう</sup> 村 <sup>そん</sup> 終 <sup>しゆう</sup> 讀 <sup>どく</sup> 知 <sup>ち</sup> 常 <sup>じやう</sup> 連 <sup>れん</sup>	防 <sup>ぼう</sup> 村 <sup>そん</sup> 終 <sup>しゆう</sup> 讀 <sup>どく</sup> 知 <sup>ち</sup> 常 <sup>じやう</sup> 連 <sup>れん</sup>											
ふ せ ぐ	む ら	つ は ひり	を は む	よ む	し る	つ ね	つ ら	つ ら	つ ら	つ ら	つ ら	つ ら	つ ら	つ ら	つ ら	つ ら
九 ノ	四 ノ	九 ノ	六 ノ	五 ノ	三 ノ	九 ノ	十 ノ	八 ノ	十 ノ	十 ノ	十 ノ	十 ノ	十 ノ	十 ノ	十 ノ	十 ノ
19	1	10	2	21	25	1	26	17	16	23	21	21	23	28		

12									
下 <sup>した</sup>	然 <sup>しか</sup>	冷 <sup>ひや</sup>	倒 <sup>たふ</sup>	湯 <sup>たう</sup>	湖 <sup>こ</sup>	泊 <sup>はく</sup>	舊 <sup>きう</sup>	往 <sup>わう</sup>	力 <sup>りき</sup>
げ ろ する	か ろ する	た ろ する	た ろ する	た ろ する	た ろ する	た ろ する	た ろ する	た ろ する	た ろ する
八 ノ	八 ノ	五 ノ	四 ノ	四 ノ	四 ノ	二 ノ	九 ノ	九 ノ	七 ノ
8	6	25	24	23	2	9	27	12	19

14							13						
徒 <sup>た</sup>	發 <sup>はつ</sup>	無 <sup>む</sup>	往 <sup>わう</sup>	勇 <sup>ゆう</sup>	逃 <sup>たう</sup>	快 <sup>かい</sup>	空 <sup>くう</sup>	飲 <sup>いん</sup>	迎 <sup>ひが</sup>	或 <sup>ある</sup>	案 <sup>あん</sup>	由 <sup>ゆう</sup>	快 <sup>かい</sup>
いた づら	は つ	な む	わ む	ゆ む	に む	く む	く む	く む	く む	く む	く む	く む	く む
十 ノ	六 ノ	八 ノ	九 ノ	八 ノ	十 ノ	九 ノ	九 ノ	五 ノ	六 ノ	三 ノ	七 ノ	九 ノ	十 ノ
3	24	13	15	25	11	13	17	18	35	19	7	14	19

16							15							
戒 <sup>かい</sup>	護 <sup>ご</sup>	園 <sup>えん</sup>	警 <sup>けい</sup>	裏 <sup>り</sup>	附 <sup>ふ</sup>	色 <sup>しき</sup>	異 <sup>い</sup>	保 <sup>ほ</sup>	周 <sup>しゅう</sup>	黒 <sup>くろ</sup>	辛 <sup>しん</sup>	結 <sup>けつ</sup>	笠 <sup>かさ</sup>	唯 <sup>ただ</sup>
い ま し む	ま も る	か こ み	毒 <sup>どく</sup>	う ら	つ ら	し ら	い ら	た ら	ま ら	く ら	か ら	け つ	ゆ ら	ゆ ら
十 ノ	十 ノ	十 ノ	五 ノ	六 ノ	六 ノ	三 ノ	九 ノ	九 ノ	三 ノ	五 ノ	十 ノ	九 ノ	十 ノ	十 ノ
8	22	22	21	7	1	21	21	16	3	12	19	27	24	







5											
萬 <small>よろ</small> づ	例 <small>れいな</small>	幼 <small>いさけな</small>	覺 <small>おほ</small>	侍 <small>はべ</small>	漢 <small>かん</small>	務 <small>つと</small>	主 <small>ぬ</small>	故 <small>こ</small>	路 <small>ぢ</small>	崩 <small>くづ</small>	床 <small>こ</small>
ま	た	わ	か	さ	じ	む	ぬ	あ	し	こ	ゆ
め	た	う	く	む	す	し	じ	ゆ	ゑ	ち	う
ん	し	ば	う	く	む	し	じ	ゆ	ゑ	ち	う
七	二	十	二	二	二	八	七	九	六	九	八
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
24	27	14	2	14	5	15	5	12	23	9	10

6													
謀 <small>はかり</small>	與 <small>あ</small>	靴 <small>くつ</small>	良 <small>りやう</small>	極 <small>きよく</small>	刷 <small>す</small>	練 <small>ねん</small>	刷 <small>す</small>	版 <small>はん</small>	繪 <small>えい</small>	書 <small>しよ</small>	固 <small>かた</small>	彫 <small>ほ</small>	圖 <small>づ</small>
ぼ	ち	約 <small>やく</small>	よ	き	さ	れ	す	革 <small>かわ</small>	ゑ	く	ぐ	も	こ
う	り	す	く	き	よ	つ	ん	層 <small>しやう</small>	く	わ	ど	ふ	り
二	三	十	十	十	八	十	十	七	三	八	三	三	三
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
25	5	10	14	23	6	5	6	11	9	9	2	4	16

8		7												
正 <small>せい</small>	範 <small>はん</small>	營 <small>えい</small>	連 <small>れん</small>	會 <small>かい</small>	非 <small>ひ</small>	張 <small>ちやう</small>	罵 <small>ば</small>	罵 <small>ば</small>	再 <small>さい</small>	捨 <small>すて</small>	罵 <small>ば</small>	得 <small>とく</small>	卷 <small>くわん</small>	髮 <small>はつ</small>
た	し	模 <small>も</small>	は	う	あ	く	ひ	は	ば	さ	し	の	ね	ま
ぶ	や	い	こ	わ	る	い	や	る	い	や	る	く	み	
し	う	む	ぶ	ん	ふ	い	る	い	や	る	く	み		
八	四	十	八	七	九	五	九	八	十	三	三	十	八	八
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
6	10	13	21	17	7	10	21	6	7	8	20	7	6	11

1										課	卷		
徑 <small>けい</small>	費 <small>つひ</small>	扇 <small>せん</small>	位 <small>ゐ</small>	佛 <small>ぶつ</small>	等 <small>と</small>	過 <small>くわ</small>	潔 <small>いさぎ</small>	新 <small>にい</small>	吹 <small>ふい</small>	稱 <small>しやう</small>	第	十	卷
ひ	あ	く	ほ	こ	なら	あ	す	あ	あ	あ	た	十	
あ	ふ	ら	ど	う	ご	あ	ま	ら	あ	あ	た	十	
ふ	ぎ	ゐ	け	う	ご	ま	ち	ら	あ	あ	た	十	
九	四	八	十	八	七	七	八	九	十	七	五	十	
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	
11	24	15	27	12	14	17	4	17	18	14	22	12	

3										2				
河 <small>か</small>	森 <small>しん</small>	失 <small>しつ</small>	和 <small>わ</small>	指 <small>さし</small>	飛 <small>ひ</small>	益 <small>えき</small>	林 <small>りん</small>	伐 <small>たき</small>	薪 <small>しん</small>	葉 <small>は</small>	處 <small>こ</small>	眼 <small>がん</small>	熱 <small>あつ</small>	齒 <small>は</small>
か	も	し	わ	さ	ゆ	と	ま	は	ば	効 <small>か</small>	は	し	ま	ね
り	つ	す	び	ぶ	ま	ま	ま	し	つ	樹 <small>じゆ</small>	す	こ	つ	
九	五	十	六	三	五	八	八	四	七	禁 <small>きん</small>	五	十	八	八
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
6	22	13	23	19	6	7	26	4	24	・	11	16	23	19

4										砂 <small>しゃ</small>	
霧 <small>きり</small>	外 <small>は</small>	床 <small>い</small>	角 <small>かく</small>	ひ	生 <small>せい</small>	低 <small>ひ</small>	震 <small>か</small>	語 <small>か</small>	砂 <small>しゃ</small>	六	六
む	け	ほ	ぐ	そ	し	ど	か	か	つ	し	き
わ	い	ど	う	こ	ご	く	の	う	む	ま	い
かい	ど	う	こ	ご	く	の	う	む	ま	い	き
七	八	七	七	四	十	八	七	五	八	七	七
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
8	2	21	9	12	16	4	13	25	23	1	9















12										
貴達	優短	勉省	耳計	舉妹	姉門	嚴衛	互	性	歡	
し	る	む	み	る	あ	も	き	び	ん	
き	い	べ	は	け	あ	も	き	び	ん	
た	み	は	し	け	あ	も	き	び	ん	
が	ぢ	ぶ	や	い	よ	ぐ	ね	ん	し	
ふ	う	ん	く	う	い	よ	ぐ	ね	ん	
十	七	七	九	七	二	三	十	六	六	三
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
17	17	7	18	7	25	17	16	2	22	15

14				13								
此贊	亡	治	事	譽	喜	任	口	調	衣	眞	半	帶
こ	準	ち	じ	こ	よ	よ	に	こ	く	て	こ	い
の	宛					ろ	ん	う	ち	う	も	ど
八	三	七	七	六	八	九	八	七	二	十	七	九
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
7	21	24	5	9	24	10	24	4	7	14	26	17

16						15						
愚賢	悔	從	傍	修	獻	菜	好	滋	濟	丁	舉	近
ぐ	け	く	し	か	け	な	よ	か	化	す	て	こ
ん	ひ	う	や	が	ん	し	う	奇	む		い	る
十	十	十	三	十	十	七	三	三	三		八	十
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
18	25	17	21	25	20	1	12	3	16	9	22	25

7											
霧	延	關	差	交	鏡	速	優	輪	舟	智	赤
き	の	せ	く	さ	か	け	け	は	す	ま	わ
り	ば	わ	ん	し	う	い	う	む	か	ね	ね
十	七	九	九	七	九	九	九	七	七	七	十
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
4	21	7	6	15	25	24	10	11	7	12	22

9					8									
幹	額	縦	追	井	經	占	賀	苗	江	專	獲	情	港	雷
み	ひ	た	お	る	へ	せ		督	ね	せ	る	な	み	か
き	ひ	て	ふ			ん		區	ん		け	な	さ	な
七	七	十	五	六	十	八		懷	七	十	七	七	六	七
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	比	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
4	20	14	23	13	21	24		、	7	25	20	10	23	10

11					10									
戲	體	速	逃	む	束	途	號	情	己	步	途	許	仇	積
ぎ	か	た	す	そ	の	が	が	じ	こ	忌	つ	ゆ	き	つ
	ら	だ	み	が	る		う	や	う	疑	ひ	る	う	ひ
十	七	七	七	九		三	十	十	三	九	十	十	三	六
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
17	20	24	7	7	14	27	18	8	27	2	16	21	23	



24																		
伐露肥唯凍嚴圖鄉採狹凍略般隨對	き	つ	ひ	た	こ	げ	は	づ	ご	と	け	と	ほ	況	殆	ど	呈	拓
る	ゆ		だ	る	ん	る	う	る	ふ	う	ぼ							
十	十	七	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
3	24	22	15	24	12	4	9	2	28	12	24	16				3	2	

25																				
政羽賢責率反敗出至從相訪未歎輔	せ	は	は	か	せ	そ	た	は	は	し	で	い	し	じ	さ	あ	は	す	な	ほ
い	ね	し	き	つ	ん	ん	い	つ	る	る	う	う	う	ひ	う	急	く			
十	四	四	十	十	十	九	八	十	六	三	九	十	十	九	六	十	七	十	十	十
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
22	24	20	17	22	27	5	23	13	23	14	2	21	17	17	17	3	28	26		

26																				
京冠乾斬抱冠瓦卒觀仲謀上	き	か	か	か	き	だ	か	因	を	そ	く	な	は	か	の	じ	あ	う		
う	や	む	り	ん	る	く	ん	葬	へ	つ	ん	か	み	る	う	る	へ			
六	十	十	十	八	十				十	九	七	五	十	八	五	四	三	二		
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ				ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ		
11	26	27	3	24	19	26			23	8	16	13	7	1	7	24	6	9		

17																	
筆寄姿貴違未悔將戲訪過休齒量爲	ふ	よ	妙	た	ち	い	く	し	た	ど	か	す	や	は	り	な	た
で	す	臥	す		ひ	だ	ひ	う	れ	ふ	ぐ	む					
六	十			十	十	八	十	六	十	十	十	八	四	十	十	十	九
ノ	ノ			ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
21	10			13	13	15	17	14	11	25	1	4	15	2	20	21	17

19												
冬波器源雄雌沿谷深絶條瀧	ふ	な	き	げ	を	め	ね	た	ふ	た	す	幅
ゆ	み		ん				ん	に	し	ゆ	じ	
六	四	九	十	十	十	十	五	七	八	十		
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ		
1	25	1	5	2	2	5	4	22	25	22		

20																					
需飾條縫延紡廻績紡底尾獲淨旬玉	保	傾	さ	で	醸	甘	し	牧	種	ぼ	ね	め	ま	巧	つ	そ	を	か	う	吞	じ
				う	う	う	ん	る	す	管	ぐ	こ									
				十	十	十	十	十	十	十	十	七	十	七							
				ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
				27	19			21	7	5	18	22	6	18	8	22					21



5		4										3		
腐 <small>ふ</small>	與 <small>あつ</small> 枯 <small>か</small>	晴 <small>せい</small>	掲 <small>か</small>	帶 <small>たい</small>	弱 <small>じやく</small>	表 <small>あら</small> 示 <small>し</small>	象 <small>しやう</small>	掲 <small>か</small>	測 <small>そく</small>	整 <small>せい</small> 周 <small>しゆう</small>	鍛 <small>たん</small>	整 <small>せい</small>	周 <small>しゆう</small>	鍛 <small>たん</small>
く	あ	は	け	お	よ	へ	お	し	ざ	か	避 <small>さ</small>	せ	し	き
さ	た	れ	い	び	は	も	め	す	う	く	く	い	う	た
る	る	る			る	う	て	う	う	ぐ	刻 <small>く</small>	い	う	ふ
九	十	六	三	二	五	七	五	十	六	三	十	九	三	
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
25	9	4	4	13	23	21	21	14	7	4	25	16	1	
7		6												
獨 <small>ひ</small>	勵 <small>げ</small>	解 <small>かい</small>	憂 <small>うれ</small>	援 <small>えん</small>	見 <small>ま</small> ゆ	方 <small>かた</small>	息 <small>いき</small>	請 <small>せい</small>	援 <small>えん</small>	蒸 <small>じゆう</small>	憤 <small>ふん</small>	投 <small>とう</small>	濱 <small>はま</small>	
り	む	か	い	る	け	み	か	は	い	せ	た	す	じ	
ど	れ	い	う	ん	ん	る	た	う	き	い	け	う	や	
く	い	い	う	ん	ん	る	た	う	き	い	け	う	や	
士	士	士	士	士	六	三	四	三	十	士	士	九	士	
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	
26	27	12	18	7	12	13	14	15	18	26	7	3	18	
9		8												
封 <small>ほう</small>	惡 <small>あく</small> む	好 <small>かう</small>	及 <small>およ</small>	余 <small>よ</small>	畫 <small>か</small>	慶 <small>けい</small>	郡 <small>ぐん</small>	若 <small>わか</small>	叱 <small>しか</small>	戒 <small>かい</small>	再 <small>さい</small>	辱 <small>は</small> し	辱 <small>は</small> し	
す	あ	よ	こ	お	わ	る	が	齢 <small>れい</small>	署 <small>しよ</small>	委 <small>い</small>	坪 <small>つ</small>	就 <small>しゆう</small>	慈 <small>じ</small> 確 <small>かく</small>	
推 <small>お</small>	あ	よ	こ	お	わ	る	が	齢 <small>れい</small>	署 <small>しよ</small>	委 <small>い</small>	坪 <small>つ</small>	就 <small>しゆう</small>	慈 <small>じ</small> 確 <small>かく</small>	
く	あ	よ	こ	お	わ	る	が	齢 <small>れい</small>	署 <small>しよ</small>	委 <small>い</small>	坪 <small>つ</small>	就 <small>しゆう</small>	慈 <small>じ</small> 確 <small>かく</small>	
九	六	六	六	七	三	十	八	八	三	九	十	慈	確	
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	
16	25	21	16	2	21	6	9	7	6	10	16	7		

28		27										1		2		3	
採 <small>さい</small>	遺 <small>い</small>	胞 <small>ほう</small>	利 <small>き</small>	乾 <small>かん</small>	豫 <small>よ</small>	勵 <small>れい</small>	例 <small>れい</small>	步 <small>ふ</small>	編 <small>へん</small>	基 <small>き</small>	兒 <small>じ</small>	編 <small>へん</small>	衣 <small>い</small>				
る	さ	ゆ	り	ほ	か	は	た	れ	ほ	あ	あ	も	可 <small>か</small>				
い	る	る	す	す	か	は	た	れ	ほ	あ	あ	も	可 <small>か</small>				
士	士	七	士	士	士	士	十	十	九	八	士	士	犯 <small>はん</small>				
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ				
24	23	11	26	3	22	8	14	5	8	21	27	14	27				
1		1										1		1			
計 <small>けい</small>	組 <small>くみ</small>	慮 <small>りょ</small>	虜 <small>りょ</small>	廢 <small>はい</small>	榮 <small>さか</small>	承 <small>しょう</small>	鍛 <small>たん</small>	宗 <small>そう</small>	誠 <small>まこと</small>	實 <small>まこと</small>	修 <small>しゆ</small>	聖 <small>せい</small>	第				
は	け	く	お	制 <small>せい</small>	奮 <small>ふん</small>	ね	し	た	し	せ	は	し	十				
か	け	く	お	制 <small>せい</small>	奮 <small>ふん</small>	ね	し	た	し	せ	は	し	十				
る	い	み	お	制 <small>せい</small>	奮 <small>ふん</small>	ね	し	た	し	せ	は	し	十				
士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	十				
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	十				
12	21	4	8	烈 <small>れつ</small>	悟 <small>ご</small>	20	21	6	3	24	11	26	17				
2		2										2		2			
崎 <small>さき</small>	側 <small>がわ</small>	固 <small>こ</small>	打 <small>うち</small>	浪 <small>なみ</small>	郷 <small>きゆう</small>	織 <small>オリ</small>	幾 <small>いく</small>	泣 <small>なみ</small>	僅 <small>わずか</small>	収 <small>おさ</small>	包 <small>ほう</small>	誘 <small>いさ</small>	十				
縮 <small>しゆく</small>	そ	こ	か	な	き	お	い	な	わ	し	つ	い	十				
庫 <small>くら</small>	ま	か	な	き	お	い	な	わ	し	つ	い	十	十				
繕 <small>ぜん</small>	ま	か	な	き	お	い	な	わ	し	つ	い	十	十				
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	十				
21	26	23	4	6	19	6	24	10	9	18	19	22	9				

第十二卷



19										
下	指す	據	絹	邊	探	権	險	取	憂	慮
しげか	おさく	おしし	ゆき	きへ	さ	稀	と	う	り	
ろが	たり									
も	する	する	た	び	よ	ぬ	り	端	る	よ
九	八	八	五	四	四	四	二	五	三	六
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
12	8	6	25	24	23	3	9	3	6	15

20										
復	音	額	傍	捨	弾	体	奪	聽	衰	辻
ふ	ね	お	か	ば	す	は	だ	て	た	だ
く	と	く	う	つ	く	ん	い	い	つ	く
七	五	七	七	十	七	八	七	七	七	七
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
4	8	15	9	17	7	27	24	11	24	23

22					21				
豫	責	濟	染	探	盜	側	當	視	余
よ	せ	さ	そ	た	頼	か	あ	た	し
め	い	む	ん	届	禍	は	る	う	
七	七	七	八	三	禍	三	九	七	七
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
27	25	16	18	19	縁	3	19	12	2

12			11			10				
匹	狭	除	裁	永	紅	頂	鬪	虎	叱	力
ひ	せ	じ	培	な	く	こ	べ	灰	と	と
き	ま	し	よ	介	が	い	う	に	但	う
五	七	七			九	十	八	七	陽	十
ノ	ノ	ノ			ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
23	24	16			26	9	11	22		

16		15		14		13	
除	略	適	隅	華	據	洲	低
の	り	て	資	困	よ	屈	ひ
ぞ	く	く	す	創	混	留	し
七	七	七		雅	掃	七	七
ノ	ノ	ノ		ノ	ノ	ノ	ノ
12	24	18		19		4	27

18			17				
救	憤	賤	忍	牙	爪	顧	移
す	ふ	い	や	き	つ	こ	う
ひ	ん	む	柔	ば	め	る	あ
九	七	七		八	六	七	七
ノ	ノ	ノ		ノ	ノ	ノ	ノ
21	6	22		21	19	14	3







叔 <sup>を</sup>	祖 <sup>は</sup>	天 <sup>て</sup>	今 <sup>け</sup>	伯 <sup>を</sup>	煙 <sup>た</sup>	叔 <sup>を</sup>	何 <sup>い</sup>	大 <sup>た</sup>	如 <sup>い</sup>	語	
母 <sup>は</sup>	母 <sup>は</sup>	井 <sup>じ</sup>	朝 <sup>あ</sup>	父 <sup>ち</sup>	草 <sup>こ</sup>	父 <sup>ち</sup>	時 <sup>つ</sup>	刀 <sup>ち</sup>	何 <sup>ん</sup>		
九	同	同	同	同	同	同	同	同	八	卷	
2	19	16	14	14	13	13	10	10	9	課	
夜 <sup>よ</sup>	五 <sup>い</sup>	紅 <sup>か</sup>	昨 <sup>きの</sup>	祖 <sup>ぢ</sup>	最 <sup>も</sup>	自 <sup>し</sup>	境 <sup>け</sup>	數 <sup>あ</sup>	語		
半 <sup>は</sup>	百 <sup>ひゃ</sup>	葉 <sup>は</sup>	日 <sup>ひ</sup>	父 <sup>ち</sup>	早 <sup>はや</sup>	然 <sup>ぜん</sup>	内 <sup>ない</sup>	多 <sup>た</sup>			
同	十	同	同	同	同	同	同	九	卷		
4	4	27	13	13	13	12	9	6	課		
黄 <sup>わう</sup>	吹 <sup>ふ</sup>	時 <sup>じ</sup>	春 <sup>はる</sup>	小 <sup>こ</sup>	行 <sup>ぎやう</sup>	名 <sup>な</sup>	白 <sup>はく</sup>	此 <sup>こ</sup>	所 <sup>しよ</sup>	語	
金 <sup>きん</sup>	雪 <sup>せき</sup>	雨 <sup>あめ</sup>	雨 <sup>あめ</sup>	波 <sup>なみ</sup>	方 <sup>はた</sup>	殘 <sup>ざん</sup>	髮 <sup>はつ</sup>	方 <sup>はた</sup>	以 <sup>もつ</sup>	入 <sup>いれ</sup>	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	卷	
11	8	8	8	5	24	18	15	15	7	5	課
誠 <sup>まこと</sup>	其 <sup>その</sup>	就 <sup>な</sup>	田 <sup>た</sup>	部 <sup>ぶ</sup>	彼 <sup>か</sup>	此 <sup>こ</sup>	彼 <sup>か</sup>	何 <sup>い</sup>	鹽 <sup>えん</sup>	語	
心 <sup>こころ</sup>	處 <sup>ところ</sup>	中 <sup>ちゆう</sup>	舍 <sup>しや</sup>	屋 <sup>や</sup>	處 <sup>ところ</sup>	處 <sup>ところ</sup>	方 <sup>はた</sup>	處 <sup>ところ</sup>	梅 <sup>ばい</sup>		
同	同	三	同	同	同	同	同	同	同	卷	
27	19	11	26	22	20	20	20	18	16	課	



## 第二章 語句に就て

讀方教授に於て語句取扱が重要な仕事の一つであることは何人も異論はあるまいと思ふ。一寸參觀しても語句取扱の巧拙で其の教師の讀方教授の手腕がうかゞはれる。さて讀本中には幾千の語句が使はれてあるがこれ等を的確に會得させる爲めには我等は尠からぬ苦心をしてゐる。何小學校の讀本位かといはれるかも知らぬが、兒童だから困難なので兒童を對照してこれに理解せしめるといふ事が苦心の存する所である。以下語句取扱の大体を述べて見よう。

### 第一節

#### 1、語句の解釋方法

一、換言法 これが最も普通に行はれる方法で、他の類説に換言して會得するのである。蓋兒童既知の言語でなければ却て解釋に解説がある事になる。それが爲め時には方言で解き示して都合のよいものもある。

二、直觀法 百の文句を並べるよりも一の實物を見せるがよいといふ譯で、



語によりては實物繪畫又は身振、手眞似等によりて會得させて都合のよいものが尠くない。

三、適用法 正面から解釋しても會得し兼ねるものを手近なものに適用して歸納的にはあ、あんなことか。と合點させる方法である。

四、分解法 熟字、熟語等で分解して各の意義を究め之を總合して其責を會得させるによい語がある。例へば教室は教へる室、涙せきあわす。はせきとあわすに分解して其意味を知らす類。

五、引例法 抽象的には分りかねるも例をあげれば直に分るものがある。例へば親切といふには親切な人の例をあげて知らす類である。

六、溯源法 高學年に於て故事成語の類を教ふるに時に其の出所を示すと都合がよいことがある。但しあまり深入つてならぬと思ふ。

七、定義法 極少數であるが科學上法律上等の術語には定義を示すことがある。

此の外比喩や類例により會得させる等各語について各學年の程度に應じて教師の適切な豫定が必要である。左表の如きもこの考より立てたものである。尤より完全なものではないから先づ之によつて漸次完成させる考である。

## ロ、語句の練習

語句尋究 語句は單に解説した丈では足らない。これを尋究して縦からも横からも見通して究めて置いて更に練習應用の方面に導くことが大切である。語句練習の方法の一面 語句練習の一般的方法是稿を更めて説いて見たいが今其の閑却されてある一、二を挙げし見る。凡そ語句はなるべく子供の物にさせて運用させる様に導く要がある。そこで正面から解説した語を練習する際にはなるべく反面側面から問ひて其語をいはず様につとめたいと思ふ。例へば畢竟とはつまり、要するに等の意と解いたものは練習の際はつまりといふべき場合に何といふかと問ひ畢竟の答を得る様に所謂反譯といふことが語彙を豊富ならしめる上に有効であると思ふ。

語句の彙類 低學年の語彙貧弱な場合はたゞ、尋常五學年以上になると餘程語彙が増して来る。そこで教授中なるべく既知の語句と共に類語に彙類せしめ、進んでは學期末或は學年末等に類語の整理類似の短文又は句の整理等を行ふことは矢鱈な復習よりも學習の經濟上から見ても有効な方法と信じるのである。



### ハ、各學年に於ける語句取扱の方針

尋常一二學年、尋常一學年の讀本に約六百六十語、尋常二學年の三卷には之に約二百の新語が加つて行くといふ様な割合であるが實際我々の取扱つてゐる兒童には其の大部分は讀めば分るといふものである。即ち譯をつける必要のないものが大多數であるといつて差支はない。しかし此等の言語を悉く日常使用してゐるかといふとそれは疑はしい。殊に敬語の如きは彼等には困難である。そこで此の程度ではこれを日常使用の物にさすことに骨を折りたい。換言すれば言語整理を主としたい。話方練習を重んじて讀んだものは自話せる様になりたいと思ふ。

尋常三四學年、この程度のものもあまり難解な語句はないが、多少難解のものもあるし中には文語文といふものがあるからこれ等に對して相當の注意を拂ひ語句文章と事實をよく連結する様に所謂文の理解に努めたいと思ふ。但し尋常四學年にて随分程度不相應に難解な語文（花ごよみ、琵琶湖、何事も精神等）等があるがこれ等はあまり語句に拘泥せず極大体の有様又は精神が分ればよい位の程度に取扱つて差支ないと思ふ。又編纂者もかゝる精神

ではあるまいかと思ふ。

尋常五六學年、語句文章の程度が高尙になつて彼等日常使用にない難解雅醇な語句も尠くない。これ等の正確な理解と或物は情味とを鑑賞せしむる立場にて取扱ひたいと思ふ。凡そ語句の一般の意義は種々あつて其の解釋も區々になり易いがすべて一文中に於ける語句の意義は最も的確なものである。そこでこの程度の兒童にはなるべく文中前後の關係によりて推究さして其文中にて活きた意義を捉へさせる様にとめることがやがて讀解力をつける原因の一つとなる譯であると思ふ。例へば（十一卷四課）越玉勾踐つぶさに辛苦をなめて云々の文中辛苦の語義は文前後の關係より推考させれば大体判斷がつくべき筈である故に先づ推考させて教授を進めるやうに取扱ひたい。其他つぶさにの語の如き副詞等はそのかゝるべき語を明かにして始めて其眞意を知り得るものなればこれ等に關して適當に取扱ふ必要があると思ふ。唯うはの空で本が讀めた丈で満足して居る様では百年待つても讀書力は覺束ないと思ふ。かく述べて來たが國語教授は語句教授であるといふのではない。讀本の取扱には他に一篇の主旨とか作者の立場とか種々の問題もあるが先づ語句の解よろしきを得ることが文章理解の基であるといふことをいひたいの



である、猶重ねて述べて置きたいのは決して語句の教授に拘泥してはならぬといふことである。

### 第二節 各課に於ける語句の解釋表

#### 尋常小學讀本卷三

第一課		ツツミ 日本	トテ ニツホンとよむ	ウチ オルスキ タンボ	自宅のこと ルspanとよむ。 實際によりて知らず。
第二課		オサラヒ オサラヘは誤	オサラヘは誤	第五課	スバシコイ ケタフス シマフス ムカシ 天カシ 天カシ ナカシ ナカシ トラセニナリ
第四課		イマニ、ケツシテ ウ、ン、ド ナニ、セウ	「モ」は「ダ」の意なり。他例によりて會得せしむの類ヤハリと同じでたゞ意味をつよめる。	第十二課	ウエ、ウワリ してなり。 この二者の自他の用法に注意すべし。

第六課		イマニ、ケツシテ ウ、ン、ド ナニ、セウ	呼應に注意すべし。	第十三課	七行ク センセイノオ ツシヤル	ミチなり。ヒチにあらず。 口語「イク」文語「ユク」 センセイのオツシヤルは皆の イフト比較シテ敬の意を知ら すべし。
第七課		コハレル	方言(メケル)	第十四課	モグル	クグル
第九課		コロブ	方言(コケル)	第十五課	フンバツ	適用して會得せしむ。
第十課		ノビテ ザル 二三日タツタ ラ、セウ	方言(ノンデ) 方言(ヒタミ) 時の呼應に注意すべし。	第十六課	アサ日	アサ 日とアサ日の讀分意義 の異なるに注意すべし。



第十七課

コトニ  
君ガ代  
しないどころ  
はありません

適用すべし。此の學級で「こまに  
せいが高い。こまに色が黒し等  
君ガ代」の歌はあまり秘密なる  
解釋を要せず。天子様はいつ  
迄もたさかねなるやうにさい  
ふ歌位にてよし。要はその情  
を起さしむるにあり。  
みんなしますよ比較して意味  
の強さを知らず。

第十八課

そか

陸のこまにて丘さ比較すべし。

第十九課

だれやなぎ

類例「したれさくら。したれ  
梅」

第二十課

たやすくは  
言ひつけられ  
よばれ。いは  
れ。

一寸には、  
受身なるに注意すべし。

第二十一課

虫ぼし  
ゆき  
たけ  
代名詞

土井ぼし  
衣の背縫の所から袖口まで。  
襟付から裾まで。これ等實物  
にて教ふ。  
本課に「あの」「この」「あそこ」  
「こちら」等指示代名詞にし使  
用練習をなすべし。

第二十二課

おだやか  
おろす

しづか。類例「天氣がたや  
か」「ただやかな人」等。  
類例「あみな」「手を」「ほ  
を」。

第二十四課

うみへ  
わきし

二十二課はまへに同じ。  
あざてにあらず。

尋常小學讀本卷四

第一課

西どなり

東、南、北に應用せしむべし。

左がは

右、東、西、南、北に應用せしむ  
べし。

第二課

しげる  
まがりまがる

實例によりて教ふ。  
曲る意を強めたるもの。曲る  
と比較。

第三課

はたきおとす

適用「ごみ」をはたきたとす。

第四課

今年  
かかし  
たてふありま

こまにさよじ。  
かかしはさらす。  
人がたてて置いたこと。

第五課

青空高くそび  
ねたち。  
かすみのすそ  
日本一

青空に高くつき出てること。  
霞のたなびいてるを形容した  
もので富士は高い峰であるか  
ら霞の上高く秀でること。  
如何なる意味で日本一である  
かを明にすること。

第六課

すその  
まきがかり  
てたひじし  
ねもの  
まちかまへる  
たふれるが早  
いか。

實例により又繪によりて説く。  
四方を取巻いて獸をかるをい  
ふ。  
きづをしたし「て」「て」は深  
さつたもの。  
適用して知らず。  
たふれるとす。

第七課

なるほど

これは全く大人の專用語にて  
相手の言葉が自分の考と一致  
する場合又は相手の考のよく  
分りたりたること發する言。  
適用して會得せしむ。

第八課

一かけ

糸を束ねたるを數へる單位の  
名。

第九課

めをふき出す

芽をだす。(噴くより萌すの意  
となりしもの)



お目にかかりませう。そのうち

第十課

適用せしむべし。

ようい  
ねばりけ  
知つてゐます  
ことも  
しなればな  
りません。

第十一課

意味同じきこと注意すべし。

作ります。こ  
しらへます。  
、にしたり  
、にしたり  
、にした  
する。

第十二課

すいぶん

普通は相應にの意に用ふれどもここに皮肉にたいさうの意。

すます

これをしめる

これををか

い。

そつと

さ、

第十三課

類例を示すべし。前より行はれ来りしこと一例へば正月の松飾、ねせつ。

おくる

きたり

第十五課

ねなじに同じ。後の休ますの休じは異りねること。

たんなじ

やすんで

いきをもつが

す。

第十七課

しめにうぐひ

一巻松に鶴、竹に雀、柳につばめと共に配合の面白味を會得すべし。

しんばい

第二十二課

はれぎ

第二十三課

すわて

しよくだい

くわん女

第二十四、五課

へさき

さしまねく

いくら

名人

なかなか

まさる

わられ

たふかひ

船のかしらの方、招く。手まねきする。どれほど、上手な人、たいそう、適用せしむべし。同(遊動円木につてゆられいくさ。

第十九課

第二十課

あしだ

第一卷三十二頁にもありこの地方げたさいふ。

お目にかかりませう。そのうち

第十課

適用せしむべし。

ようい  
ねばりけ  
知つてゐます  
ことも  
しなればな  
りません。

第十一課

意味同じきこと注意すべし。

作ります。こ  
しらへます。  
、にしたり  
、にしたり  
、にした  
する。

第十二課

しめにうぐひ

一巻松に鶴、竹に雀、柳につばめと共に配合の面白味を會得すべし。

しんばい

第二十二課

はれぎ

第二十三課

すわて

しよくだい

くわん女

第二十四、五課

へさき

さしまねく

いくら

名人

なかなか

まさる

わられ

たふかひ

船のかしらの方、招く。手まねきする。どれほど、上手な人、たいそう、適用せしむべし。同(遊動円木につてゆられいくさ。

第十九課

第二十課

あしだ

第一卷三十二頁にもありこの地方げたさいふ。



じたい  
かくご  
どりがほし  
まどが定まり  
ません。おち  
ついて見ま  
す。  
つがへ  
ひきしぼる  
かなめのきは

ここはる。  
適用せしむべし。  
もちかへる。  
二文を比較し會得せしむ。  
實際を手まねにより示す。  
十分はる。手拭なさをしぼる  
きは異なる。  
實物にて會得せしむ。

### 尋常小學讀本卷五

#### 第一課

戸をたて  
あかるくなつ  
たと申します  
た出し申し上  
げました。  
おらせて

戸をしめて(四卷ノ十二課)に  
同じ。  
——といふことです。  
申し上げは、は單に敬語に  
用ひたるもの、  
人にたせせての意(使役の助  
動詞)

#### 第三課

御せいばつ  
けわしく  
たごまりのこ  
とがございま  
した。  
御案内申し上  
げました。

わるものをうたれること。  
實例を示すべし。  
たごまりになりましたとは異  
るに注意し、或時こんなこと  
がありましたたといふ意に教ふ。  
案内は適用して教ふ。  
本課にて敬語の練習に注意す  
べし。

#### 第四、五課

出合ふ  
一思ひに  
何だか  
しばらく  
ひたし  
やがて  
そこへ

「ふ」は口語のときは「ウ」、  
思ひ切つての意。  
何かわからぬ意。類例により  
會得さす。  
少しの間、  
したしにあらす。ぬらす。つ  
ける。  
まもなく。  
底へなり其處に非ず。

#### 第七課

かはらをふくやねをふく等類例にて歸納せ

のせいがよい  
川魚の長  
両わき  
金色をわびて  
ゐます。

しむべし。  
次の元氣がよいと同じ。  
校長、級長、市長等と比較し  
て歸納せしむ。  
両側の意、脇にあらず。  
、をわびるは類例を示す。

#### 第八課

流しもと  
ひしやく

はしりともいふ。  
しやくともいふ。

#### 第九課

うはさ  
うつたへ  
さつそく

たれ言ふとなく世間に云ひふ  
らされた言にて適用して會得  
せしむ。  
ながふと(普通)にいふ。

#### 第十課

もどより  
省畧せられた  
るを補ふ。

初から、  
ゆめのうち(に過ぐ)土用干  
(にせられ)それも世のため人  
のため(と思つてあきらめて

#### 第十一課

かりこんだ  
そだつ  
でんた  
でたばかり、

ある)なくてはならぬこのわ  
たし(であるからかあいがつ  
て下さい)。  
立派に刈る意、實例を示すべ  
し。生物にいふ。適用せしむべし。  
花びら。

#### 第十二課

たふんで  
引立つ  
さまざま  
もやう

適用「着物を」。夜具を「等」  
よくなる。  
色々。  
實物につきて教ふ。

#### 第十三課

おほせになり  
ました。  
あそばす  
たまはり

たよび、  
ねつしやいました。より敬意  
重し。  
するの敬語。なまるよりも敬  
意強し。  
やるの敬語。



たみや

宮城、こてん。

第十五課

まつくら  
通りぬけ

まは接頭語にして強味をもたしたるものまつ直、まつ白、まつ二つ等適用せしむべし。(四卷十八)通りかゝり比較すべし。

第十六課

なか／＼

容易にの意大そうとは異なる。

第十七課

でこぼこ

下のなめらかと對照すべし。

熟す

うれる。

爪のつるには  
なすびはならぬ。

子は親に似て親に勝れたものは出来ぬことを諷刺せるものなれど、こゝにてはこんなこゝろさあがある位にて意味はあまり尋究せざるを可とす。

第十八課

その中に

中はうちとよむ「その中」の外は大概なかとよませたり。

勝負がつく

仲ど中

つ。はきまるの意島の方に。つ。は意異なる。仲は多く人の間柄に用ふ。中は物と物との間に用ふ。

第十九課

石油

すたれ

さもすは音便なり。せきたんといふはよろしからず。實例をあけて歸納せしむべし。町ではランプもだんくすたれて。

第二十一課

わて名

相手の名、送る人の名。

第二十二課

さんけい

おまわり。

第二十三課

たくましい

勢強き意。

かりうご  
つく／＼

りやろし、よく／＼。

第二十四、五課

波打ぎは

瀧べしと比較せよ。瀧べは籠圍廣し。波打ぎは「は水と陸の界をいふ」。

二手

二組、

しかし  
すぐつて

けれどもに同じ。選りぬく意。わらをすぐる等。火の明りをたより

ふい  
をり／＼

あながい。時々。

ことごと  
思つ

おそれぢまむ。こゝが大事な時と思つて。

人や馬で  
ふさがる。

一をいになる。

尋常小學讀本卷六

第一課

とりまかれ

とりは意味なき接頭語類例。とりかこむ、とりひろげる。

たもしろい。

ぶり  
からりと

こゝは趣ある意。たかしいにあらず。ぶりは様子といふ様な意。男ぶりの武者ぶりにいふが如し。物のすつかり變るべき用ふ。からりとされるを教へて反面のどんより曇るを教ふるも面白し。にほんさよひ。

わけて  
名におふ

さりわけて。有名の意。名と實と件と意に用ふべきあり。

白つゆむすぶ  
かはる／＼

露の置くを結ぶといふ。この語は「さき」と「鳴く」にかゝるに注意せよ。

ちぐさ  
かすみか雲か

「さ思はれて」を補ひて解説すべし。(文語基礎)

日かさなりて  
月となる。

日がかさなつて月となりませ。

一年は十二ケ  
月あり。

一年は十二ヶ月あります。

四季に分つ。  
三月の初より

四季に分けます。

春なり。

三月の初から。春であります。



暑<sup>○</sup>。暑<sup>○</sup>はあたら<sup>○</sup>か  
暑<sup>○</sup>う<sup>○</sup>。暑<sup>○</sup>う<sup>○</sup>。暑<sup>○</sup>う<sup>○</sup>。  
暑<sup>○</sup>はあたら<sup>○</sup>かであ<sup>○</sup>りま<sup>○</sup>して、

第三課

日本はれ  
かねたも  
橋のたも  
川につい  
草花<sup>○</sup>  
くた<sup>○</sup>び  
二時<sup>○</sup>し  
か

からり<sup>○</sup>晴<sup>○</sup>れ<sup>○</sup>る<sup>○</sup>と<sup>○</sup>比<sup>○</sup>較<sup>○</sup>、  
ま<sup>○</sup>へ<sup>○</sup>か<sup>○</sup>た<sup>○</sup>、  
た<sup>○</sup>も<sup>○</sup>さ<sup>○</sup>は<sup>○</sup>袂<sup>○</sup>に<sup>○</sup>て<sup>○</sup>橋<sup>○</sup>の<sup>○</sup>き<sup>○</sup>は<sup>○</sup>、  
川<sup>○</sup>に<sup>○</sup>そ<sup>○</sup>う<sup>○</sup>て<sup>○</sup>の<sup>○</sup>意<sup>○</sup>、  
草<sup>○</sup>に<sup>○</sup>さ<sup>○</sup>く<sup>○</sup>花<sup>○</sup>に<sup>○</sup>て<sup>○</sup>草<sup>○</sup>と<sup>○</sup>花<sup>○</sup>と<sup>○</sup>に<sup>○</sup>あ<sup>○</sup>ら<sup>○</sup>ず<sup>○</sup>。  
く<sup>○</sup>た<sup>○</sup>ぶ<sup>○</sup>れ<sup>○</sup>(<sup>○</sup>方<sup>○</sup>言<sup>○</sup>)  
し<sup>○</sup>か<sup>○</sup>の<sup>○</sup>應<sup>○</sup>用<sup>○</sup>練<sup>○</sup>習<sup>○</sup>を<sup>○</sup>な<sup>○</sup>す<sup>○</sup>べ<sup>○</sup>し<sup>○</sup>。

第四課

おひ<sup>○</sup>く  
ち<sup>○</sup>ゆ<sup>○</sup>う<sup>○</sup>い

本<sup>○</sup>に<sup>○</sup>か<sup>○</sup>け<sup>○</sup>る<sup>○</sup>か<sup>○</sup>  
地<sup>○</sup>面<sup>○</sup>に<sup>○</sup>ひ<sup>○</sup>ろ<sup>○</sup>げ<sup>○</sup>  
る<sup>○</sup>か<sup>○</sup>し<sup>○</sup>て

本<sup>○</sup>第<sup>○</sup>に<sup>○</sup>の<sup>○</sup>意<sup>○</sup>、  
氣<sup>○</sup>を<sup>○</sup>つ<sup>○</sup>け<sup>○</sup>る、

第五課

木<sup>○</sup>に<sup>○</sup>か<sup>○</sup>け<sup>○</sup>る<sup>○</sup>か<sup>○</sup>  
地<sup>○</sup>面<sup>○</sup>に<sup>○</sup>ひ<sup>○</sup>ろ<sup>○</sup>げ<sup>○</sup>  
る<sup>○</sup>か<sup>○</sup>し<sup>○</sup>て

「か」は又<sup>○</sup>さ<sup>○</sup>い<sup>○</sup>ふ<sup>○</sup>意<sup>○</sup>の<sup>○</sup>助<sup>○</sup>詞<sup>○</sup>。

第六課

物<sup>○</sup>さ<sup>○</sup>し<sup>○</sup>に<sup>○</sup>て<sup>○</sup>は<sup>○</sup>文<sup>○</sup>語<sup>○</sup>基<sup>○</sup>礎<sup>○</sup>  
は<sup>○</sup>か<sup>○</sup>る<sup>○</sup>。  
尺<sup>○</sup>を<sup>○</sup>も<sup>○</sup>と<sup>○</sup>と<sup>○</sup>す<sup>○</sup>。  
、<sup>○</sup>ど<sup>○</sup>い<sup>○</sup>ひ<sup>○</sup>し<sup>○</sup>  
、<sup>○</sup>ど<sup>○</sup>い<sup>○</sup>ふ<sup>○</sup>。  
物<sup>○</sup>さ<sup>○</sup>し<sup>○</sup>て<sup>○</sup>は<sup>○</sup>か<sup>○</sup>り<sup>○</sup>ま<sup>○</sup>す<sup>○</sup>。  
尺<sup>○</sup>を<sup>○</sup>も<sup>○</sup>と<sup>○</sup>に<sup>○</sup>し<sup>○</sup>ま<sup>○</sup>す<sup>○</sup>。  
基<sup>○</sup>礎<sup>○</sup>に<sup>○</sup>な<sup>○</sup>る<sup>○</sup>材<sup>○</sup>料<sup>○</sup>を<sup>○</sup>な<sup>○</sup>る<sup>○</sup>を<sup>○</sup>以<sup>○</sup>て<sup>○</sup>  
類<sup>○</sup>例<sup>○</sup>を<sup>○</sup>作<sup>○</sup>り<sup>○</sup>口<sup>○</sup>譯<sup>○</sup>練<sup>○</sup>習<sup>○</sup>を<sup>○</sup>課<sup>○</sup>す<sup>○</sup>べ<sup>○</sup>し<sup>○</sup>。  
類<sup>○</sup>例<sup>○</sup>を<sup>○</sup>作<sup>○</sup>る<sup>○</sup>に<sup>○</sup>て<sup>○</sup>(<sup>○</sup>で<sup>○</sup>)<sup>○</sup>作<sup>○</sup>る<sup>○</sup>  
筆<sup>○</sup>は<sup>○</sup>毛<sup>○</sup>と<sup>○</sup>竹<sup>○</sup>に<sup>○</sup>て<sup>○</sup>(<sup>○</sup>で<sup>○</sup>)<sup>○</sup>作<sup>○</sup>る<sup>○</sup>  
(<sup>○</sup>り<sup>○</sup>ま<sup>○</sup>す<sup>○</sup>)  
父<sup>○</sup>は<sup>○</sup>貫<sup>○</sup>一<sup>○</sup>と<sup>○</sup>い<sup>○</sup>ひ<sup>○</sup>、<sup>○</sup>母<sup>○</sup>は<sup>○</sup>ふ<sup>○</sup>み<sup>○</sup>  
と<sup>○</sup>い<sup>○</sup>ふ<sup>○</sup>。  
方<sup>○</sup>が<sup>○</sup>く<sup>○</sup>な<sup>○</sup>は<sup>○</sup>か<sup>○</sup>る<sup>○</sup>に<sup>○</sup>は<sup>○</sup>じ<sup>○</sup>し<sup>○</sup>や<sup>○</sup>  
く<sup>○</sup>な<sup>○</sup>も<sup>○</sup>と<sup>○</sup>と<sup>○</sup>す<sup>○</sup>。  
わ<sup>○</sup>れ<sup>○</sup>ら<sup>○</sup>の<sup>○</sup>學<sup>○</sup>校<sup>○</sup>は<sup>○</sup>比<sup>○</sup>治<sup>○</sup>山<sup>○</sup>の<sup>○</sup>南<sup>○</sup>  
に<sup>○</sup>あ<sup>○</sup>り<sup>○</sup>。<sup>○</sup>等<sup>○</sup>。

第七課

力<sup>○</sup>ま<sup>○</sup>か<sup>○</sup>せ  
の<sup>○</sup>ら<sup>○</sup>せ<sup>○</sup>ま<sup>○</sup>し<sup>○</sup>た<sup>○</sup>  
力<sup>○</sup>を<sup>○</sup>い<sup>○</sup>。  
の<sup>○</sup>せ<sup>○</sup>ま<sup>○</sup>し<sup>○</sup>た<sup>○</sup>と<sup>○</sup>比<sup>○</sup>較<sup>○</sup>し<sup>○</sup>意<sup>○</sup>義<sup>○</sup>を<sup>○</sup>明<sup>○</sup>  
か<sup>○</sup>に<sup>○</sup>す<sup>○</sup>べ<sup>○</sup>し<sup>○</sup>。  
「の<sup>○</sup>ら<sup>○</sup>せ<sup>○</sup>」は<sup>○</sup>使<sup>○</sup>役<sup>○</sup>助<sup>○</sup>動<sup>○</sup>詞<sup>○</sup>、「の<sup>○</sup>せ<sup>○</sup>」  
は<sup>○</sup>人<sup>○</sup>々<sup>○</sup>が<sup>○</sup>象<sup>○</sup>を<sup>○</sup>の<sup>○</sup>す<sup>○</sup>こ<sup>○</sup>と<sup>○</sup>に<sup>○</sup>  
て<sup>○</sup>意<sup>○</sup>異<sup>○</sup>る<sup>○</sup>。

第八課

し<sup>○</sup>た<sup>○</sup>が<sup>○</sup>つ<sup>○</sup>て  
し<sup>○</sup>て<sup>○</sup>見<sup>○</sup>れ<sup>○</sup>ば  
し<sup>○</sup>か<sup>○</sup>も

前<sup>○</sup>課<sup>○</sup>の<sup>○</sup>そ<sup>○</sup>ん<sup>○</sup>な<sup>○</sup>ら<sup>○</sup>、<sup>○</sup>そ<sup>○</sup>れ<sup>○</sup>が<sup>○</sup>た<sup>○</sup>め  
と<sup>○</sup>共<sup>○</sup>に<sup>○</sup>其<sup>○</sup>用<sup>○</sup>法<sup>○</sup>に<sup>○</sup>注<sup>○</sup>意<sup>○</sup>す<sup>○</sup>べ<sup>○</sup>し<sup>○</sup>。  
其<sup>○</sup>の<sup>○</sup>上<sup>○</sup>。

第九課

先<sup>○</sup>で<sup>○</sup>は<sup>○</sup>知<sup>○</sup>ら<sup>○</sup>な  
い<sup>○</sup>の<sup>○</sup>だ<sup>○</sup>か<sup>○</sup>ら<sup>○</sup>一  
け<sup>○</sup>ば<sup>○</sup>よ<sup>○</sup>か<sup>○</sup>つ<sup>○</sup>て<sup>○</sup>お

こ<sup>○</sup>の<sup>○</sup>文<sup>○</sup>の<sup>○</sup>下<sup>○</sup>に<sup>○</sup>つ<sup>○</sup>ま<sup>○</sup>ら<sup>○</sup>な<sup>○</sup>い<sup>○</sup>こ<sup>○</sup>と  
を<sup>○</sup>し<sup>○</sup>た<sup>○</sup>の<sup>○</sup>だ<sup>○</sup>と<sup>○</sup>い<sup>○</sup>ふ<sup>○</sup>意<sup>○</sup>、<sup>○</sup>含<sup>○</sup>ま  
る<sup>○</sup>に<sup>○</sup>注<sup>○</sup>意<sup>○</sup>せ<sup>○</sup>よ<sup>○</sup>。

第十課

織<sup>○</sup>り<sup>○</sup>た<sup>○</sup>る<sup>○</sup>も<sup>○</sup>の  
高<sup>○</sup>き<sup>○</sup>も<sup>○</sup>の  
メ<sup>○</sup>リ<sup>○</sup>ン<sup>○</sup>ス<sup>○</sup>な<sup>○</sup>ど  
の<sup>○</sup>如<sup>○</sup>く<sup>○</sup>  
毛<sup>○</sup>を<sup>○</sup>つ<sup>○</sup>ひ<sup>○</sup>ぎ<sup>○</sup>て

織<sup>○</sup>つ<sup>○</sup>た<sup>○</sup>も<sup>○</sup>の<sup>○</sup>、  
高<sup>○</sup>い<sup>○</sup>も<sup>○</sup>の<sup>○</sup>、  
メ<sup>○</sup>リ<sup>○</sup>ン<sup>○</sup>ス<sup>○</sup>な<sup>○</sup>ど<sup>○</sup>の<sup>○</sup>な<sup>○</sup>や<sup>○</sup>う<sup>○</sup>に<sup>○</sup>、  
毛<sup>○</sup>を<sup>○</sup>つ<sup>○</sup>ひ<sup>○</sup>いで<sup>○</sup>(<sup>○</sup>文<sup>○</sup>語<sup>○</sup>基<sup>○</sup>礎<sup>○</sup>)

第十一課

ふ<sup>○</sup>き<sup>○</sup>通<sup>○</sup>し<sup>○</sup>て  
類<sup>○</sup>例<sup>○</sup>「<sup>○</sup>や<sup>○</sup>り<sup>○</sup>通<sup>○</sup>し<sup>○</sup>て<sup>○</sup>」<sup>○</sup>休<sup>○</sup>み<sup>○</sup>通<sup>○</sup>し

第十二課

は<sup>○</sup>じ<sup>○</sup>め  
適<sup>○</sup>用<sup>○</sup>「<sup>○</sup>父<sup>○</sup>上<sup>○</sup>げ<sup>○</sup>じ<sup>○</sup>め<sup>○</sup>」<sup>○</sup>「<sup>○</sup>校<sup>○</sup>長<sup>○</sup>は<sup>○</sup>  
じ<sup>○</sup>め<sup>○</sup>」<sup>○</sup>等<sup>○</sup>

第十三課

油<sup>○</sup>斷<sup>○</sup>大<sup>○</sup>敵<sup>○</sup>  
人<sup>○</sup>の<sup>○</sup>ふ<sup>○</sup>り  
猿<sup>○</sup>も<sup>○</sup>木<sup>○</sup>か<sup>○</sup>ら<sup>○</sup>落<sup>○</sup>  
ち<sup>○</sup>る<sup>○</sup>。  
我<sup>○</sup>が<sup>○</sup>身<sup>○</sup>を<sup>○</sup>つ<sup>○</sup>め  
つ<sup>○</sup>て<sup>○</sup>人<sup>○</sup>の<sup>○</sup>い<sup>○</sup>た<sup>○</sup>  
さ<sup>○</sup>を<sup>○</sup>知<sup>○</sup>れ<sup>○</sup>  
こ<sup>○</sup>ろ<sup>○</sup>ば<sup>○</sup>ぬ<sup>○</sup>先<sup>○</sup>の<sup>○</sup>  
杖<sup>○</sup>

油<sup>○</sup>斷<sup>○</sup>は<sup>○</sup>大<sup>○</sup>敵<sup>○</sup>の<sup>○</sup>様<sup>○</sup>に<sup>○</sup>恐<sup>○</sup>ろ<sup>○</sup>し<sup>○</sup>い<sup>○</sup>も  
の<sup>○</sup>で<sup>○</sup>あ<sup>○</sup>る<sup>○</sup>か<sup>○</sup>ら<sup>○</sup>萬<sup>○</sup>事<sup>○</sup>よ<sup>○</sup>く<sup>○</sup>き<sup>○</sup>を<sup>○</sup>つ  
け<sup>○</sup>よ<sup>○</sup>の<sup>○</sup>意<sup>○</sup>。こ<sup>○</sup>れ<sup>○</sup>等<sup>○</sup>の<sup>○</sup>讀<sup>○</sup>は<sup>○</sup>文<sup>○</sup>意<sup>○</sup>  
を<sup>○</sup>解<sup>○</sup>す<sup>○</sup>る<sup>○</sup>の<sup>○</sup>み<sup>○</sup>に<sup>○</sup>止<sup>○</sup>ら<sup>○</sup>ず<sup>○</sup>具<sup>○</sup>体<sup>○</sup>例<sup>○</sup>  
を<sup>○</sup>舉<sup>○</sup>げ<sup>○</sup>て<sup>○</sup>會<sup>○</sup>得<sup>○</sup>せ<sup>○</sup>し<sup>○</sup>む<sup>○</sup>べ<sup>○</sup>し<sup>○</sup>。  
ふ<sup>○</sup>り<sup>○</sup>は<sup>○</sup>様<sup>○</sup>子<sup>○</sup>第<sup>○</sup>一<sup>○</sup>課<sup>○</sup>の<sup>○</sup>枝<sup>○</sup>ぶ<sup>○</sup>り<sup>○</sup>と  
同<sup>○</sup>じ<sup>○</sup>。  
弘<sup>○</sup>法<sup>○</sup>も<sup>○</sup>筆<sup>○</sup>の<sup>○</sup>あ<sup>○</sup>や<sup>○</sup>ま<sup>○</sup>り<sup>○</sup>と<sup>○</sup>同<sup>○</sup>じ<sup>○</sup>。

第十四課

耳<sup>○</sup>を<sup>○</sup>す<sup>○</sup>ま<sup>○</sup>し<sup>○</sup>て  
大<sup>○</sup>ろ<sup>○</sup>う<sup>○</sup>に<sup>○</sup>傾<sup>○</sup>じ<sup>○</sup>。  
き<sup>○</sup>を<sup>○</sup>つ<sup>○</sup>け<sup>○</sup>て<sup>○</sup>き<sup>○</sup>く。<sup>○</sup>「<sup>○</sup>耳<sup>○</sup>を<sup>○</sup>傾<sup>○</sup>け



武士 いたづら 身が入りませ 居つき 目通り ひかへて居ま す 目をかけて はかどる 取立 馬じるし わぼく 日一日と	今の軍人。 適用「いたづら遊」「いたづら事」。 眞面目に仕事をせぬ。 長くつきぬる(大人の言葉「腰をすねし」) 貴い人にをぬにかゝること、 ていにては面前、 只あますと異り待つて居ること。 かはいがつて。 適用すべし。(仕事の進み早いこと)。 出精さす。 大將の馬の側に立て、其の居る所の印さしたるもの。 仲なほり。 日にん。
---	---

第十六課

ふくまざるも  
の少し

ふくまないものは少し。

味を附くるに  
うまからず  
出づれども  
つくれるもの  
多し

味をつけるに、  
うまくなりません。  
出ますけれども  
作つたものが多うございます。  
(文語基礎)

第十七課

勝氣  
先がけ  
陣取る。陣立  
本陣

まけないといふ氣象、實例をあげよ。  
先登すること。こゝは敵に先つて行く。  
本陣は大將の居る陣屋、陣立は兵をならべて敵に備へる。

第十八課

はふつた

ほうつたよむ。

第十九課

後足  
三日月なり

あとあしよむ。  
なりは形の意。

第二十課

用ふ 栗はかたくし て くさらざねば 弱き木なねば 美しければ ぬさ 木やり歌 は出し はしけ	(文語基礎) つかひます。 栗はかたくて、 くさらないから、 弱い木でありますから、 美しいから
--	---

第二十二課

ぬさ  
木やり歌

こへん、  
「めでためでたの若松様は枝が榮ねりや葉も茂る」の類

第二十三課

は出し  
はしけ

だしよみ、いだしよ讀ます。  
陸と船との間に物を運ぶ小舟かよい船といふ。

第二十四課

空  
ほへり

(文語基礎)  
おそうてゐる。(空一をいになつてゐます。)

都したまひし  
ところなり  
城をきづきし  
より  
大都會となれ  
あはれみたま  
ひき  
市中を流る

都なまつたところであります。  
城をきづいてから、  
大都會となりまし。  
あはれみたま  
わあはれみになりました。  
(かはいさうにと思ひになり  
ました)  
市中を流れる

第一、二課

尋常小學讀本卷七

一門  
言ひふくめ  
はたして  
あやしみてう  
かぶふに  
すでに

一族に同じ。  
言ひきかす。  
あの言葉の通りに、  
不思議に思つて様子をさぐつて見たら、  
既に已にの二つの場合あり。  
既に過去のことに用ひ、已は



賊を平げしめ  
 んとなり。  
 かたみの刀  
 天顔をおがみ  
 遂ぐ  
 感するにあま  
 りあり。  
 さだめて難儀  
 なるべけれど  
 師直らの首を  
 正行が取るか  
 正行らの首を  
 かれらにとら  
 するか。  
 手本といふべ  
 し。  
 天皇の御爲に  
 つくすべし。

うの事が今終りしばかり即ち  
 元了の意なり。こゝは後者、  
 この下に「思ひて」を補ひて  
 見よ。  
 記念の刀、  
 主上に御對面申上ぐるこそ、  
 果すこと、類例(志を遂ぐ。最  
 後を遂ぐ。)大變感心である。  
 さつと難儀であらうけれども  
 取られるさいはず「とらする」  
 といひたる武士の意氣を味は  
 しむべし。

手本といはれます。いふこと  
 が出来ます。  
 天皇の御爲につくせ。

第三課

日まし〜  
よ〜やま  
何やかや。いろ〜。

第四課

口錢  
 料、買のなかだちしてする手數  
 訪問しませんかの意。  
 かねてに同じ。(六卷ノ三)

第五課

小豆  
 そら豆とるん  
 ござう  
 大きなり  
 心安く願ひま  
 す。

早くの意。適用「とくに参ら  
 うさ〜」。  
 あづきとよむ。  
 廣島地方にはらら豆をえんど  
 うさいひ、えんどろをらら豆  
 さいふ誤あり。  
 なるの應用をすべし。  
 應用せしむべし。例へをこの  
 度この學校に入學しましたか  
 らお心安く願ひます。御近所  
 へ参りましたらお心安く願ひ  
 ます。等。

時の人  
 それとも知ら  
 ず。  
 不自由  
 大學者となり  
 人あり。  
 いひたりとい  
 ふ。いひたり  
 とぞ。

うの頃の人、  
 自由と比較して授く。  
 大學者になつた人があります。  
 自由といふことです。(いつ  
 いたさうです。)

第六課

拾ふ。  
 多ければ多い  
 ほご  
 手り足りない。

ひらうとよむ。  
 多いのに割合しての意。内容  
 を示して應用せしむべし。  
 人の足りないこと。

第八課

第  
 九  
 課

頭  
 かへりたて、  
 あたまさよむ。

かへつたをかり(五卷十一の  
 でたてに同じ)

第十一課

繪草紙  
 荒物  
 まづ

粗末な家具等贈取等をいよ。  
 凡ろといふやうの意にて「い  
 つてよろしい」にかゝる。

第十二課

金十兩  
 馬ぞろへ  
 のして

最も丁寧なる言葉。  
 一豐の家をさす。  
 今の觀兵式の如きもの。  
 こゝはのつての敬語。(九卷十  
 三おめしに異なる)。  
 一兩は四匁にて十兩にて四十  
 匁一匁は今日の約五匁なれば  
 換算して一百匁之を相場にし  
 て今日の約二十倍即四千匁の  
 割になる。  
 買ふに同じ。

第十三課

かしこし  
 限りなし

わろれ多い。  
 多いこと。



第十五課

差引  
たぶの手紙  
おあし

ひきまるとのこと。  
集書、書状なす。  
錢のこと。

第十六、七課

かまびすし  
博物館

やかましい。  
動、植、礦物其他天然物人工物  
すべての物をならべて人に見  
せる。

ばのらま

中央を覽る所さし、まはりの  
壁に繪をかけ屏風のよから來  
る光を用つて實景のやうに見  
せる。

おごろかす  
ならざるはな  
し。

たどろくま比較すべし。  
人家なり。さいよま比較して  
會得せしむべし。(二重打消)

いかに美しか  
らん。

どんなにか美しいでせう。

まうでんとす  
日本橋

まわらうと思ひます。  
にづばん橋とよひ。

第十八課

すこぶる

大うう。

耳さとき

早く聞きこる。

、を、して、  
、せしむ。

このつかい方多し。

第十九課

さわやか  
すぐぐ

せいよくして心地よき。  
適用「口を」「恥を」

第二十課

さつそく  
たすそわけ

直に、  
賈物の餘分を人にやること。

第二十一、二課

おしめ  
ひろ

袋巾着等の緒をしゆるも、  
尋「海の深をばかるにいよ一  
等、六尺

第二十三課

うがつ  
いそしむ  
千里の波  
ふるひ

穴をあける。  
はげみつこめること。  
遠い海の上、  
心をはげます。

尋常小學讀本卷八

第一課

代々  
皇大神宮  
諸子

よよきよひ、  
くわうだいじんぐうとよひ。  
諸君は同輩諸子は目下にいふ  
言葉。

磐石  
なごならざら  
ん

大石、  
何で出來ぬことかあらうか  
出來る。

第二十四、五課

悪くすると  
漁業  
乗組

運が悪いと、  
海でリやうをすること、  
乗客をのけて船の中で仕事を  
するもの。

第二十六課

點火  
くまなく  
せひなし  
あびせかく

火をつける。  
すみく迄、  
仕方なし。  
浴びる程打ちかける。

神體  
昔ながら  
前古たぐひな  
かりきと申す  
心がけざるも  
のなし。  
いはれを知れ  
りや。  
神勅  
承る。給は、  
ひふ、へ。

神様の靈として祀る物、  
昔のまゝ、  
古から類のないこといはれ  
て居ます。  
(二重打消)  
わけを知つておますか。  
神のみことり。  
これ等の用法意義に注意すべ  
し。

第二課

夜中  
御山木細工  
記念砲身塔  
いはん方なし  
質素  
御製の意

よなかとよひ。  
御山の木にて造りたる箸盆な  
ど。  
記念として砲身で造つた塔。  
何ともいひ様がない。  
地味でかざりのないこと。粗  
末の意にあらず。  
自分はいつまでも人民が安  
様に祈るによつて、どうか  
伊勢の大神よ。わが心なくみ  
とつてよく治まる様にこの世



身にしみてお  
ぼゆの幸福ぞ  
何等の幸福ぞ  
や

第三課

いさを  
細路づたひ

第四課

そつくり  
その内

第五課

本分

第六課

招待  
おぼつかなさ  
手つき

第七、八課

身代、財産  
よつてたかつ  
かた

第九課

音なふ  
こは如何に

第十課

氣だて  
刀は武士の魂

第十一課

花ごよみ  
ほころびそむ  
藤波

池水にほふ。  
うらかれて  
黄金の色の暖

第十二課

何十人の手を  
要するかを  
らす。  
發明  
論入品

第十三課

叔父  
記録類  
土藏

第十四課

第十五課

伯父

を守つて下さい。御製(天皇  
のみ用ふ。)

身にしむやうに思はれる。

何をいふしあはせの事である

てがら、  
細路にそうて、

うのまゝ、  
近い内。

せねばならぬつこめ、

人をよんでもてなす。たゝま  
ねくにも用ふ。  
不安心ななれない。  
手の様子、適用(口つき、目

類語、  
たかるは集るに同じ。

訪問すること。  
驚く意をあらはす語にて「こ  
れはしたり。」といはんが如

氣前さいふ。適用して授く。  
この意具体化して知らむべし。

花の咲く季節にしたがひて記  
したれをかくいふ。  
咲き始める。  
藤の花の風にゆらくを波にた

生れつき。人から。  
相談しあふ。  
けらいが君に奉るもの。  
朝廷に参上すること。(内をだ  
いさよむ例九卷境内)

おうをに居ること。  
ごぜん。陛下の御前。  
下より上に奉る文。  
近く折がなかつた。

手がふるふ。  
くづくしてあると。

脚、  
物事の齟齬するにたとぶ。

其の名をつけられた通りにの  
意。  
名の貢ふ(六卷)は有名の意に  
て異々。

人どなり  
かたらひ  
貢物  
参内  
手はず  
侍す  
御前  
表文  
近く折を得ざ  
りき  
手わななき  
ためらはじ

第十六課

はぎ  
あすかのはし  
のくひちかひ

第十七課

具の名を負へ  
る



色はわて  
風情  
は之は映るなり。松の青々さ  
して美しきといふ。おもむき。

第十八課

はみ出す  
食み出す。

第十九課

祖母  
ばあさまよむ。

第二十課

相待  
互に助け合ふ。  
如何にして得  
どうして得られやうか。  
らるべき  
どうしても得られない。  
勞したりとい  
骨折つたといはう。  
はん  
骨折つたといはう。  
左様心得られ  
さう思つて貰ひたい。  
たし

第二十一課

猫でないしや  
拙い繪かきの虎は猫と間違ふ  
うこに竹をか  
から竹を描いて初めて虎であ  
るこが知れるといふ。諷刺  
いておき。

第二十二、三課

首府  
工藝美術

中央政府のある所。  
工藝は工作によりて製造する  
もの陶器、漆器、織物等、美  
術は美を表はすを目的とせる  
製作、詩歌、音楽、彫刻、建築、  
繪畫などいふ何れも具体例を  
あげて説明すべし。  
まごふに過ぎ

す  
甚しく暑から  
さ程暑くない。  
折節にかはり  
時々に変つて、

第二十四、五課

かつて  
殿下  
皇太子同妃及び親王方に用ふ  
ることを明かにすべし。  
信任  
信用して任ず。  
ひるます。  
弱らない。かゝる否定の語は  
肯定の場合ひるむ。を注意し  
知らせ置くべし。  
名譽に同じ。面目ないはあは  
す顔がないに同じ。

面目

かくれ給へり  
死ぬること貴人なれをかくい  
ふ。

第四課

ゆめも見あき  
ゆめもみあいだ。十分眠つた。  
心ゆたかに  
心のどかに。  
色そふ  
色がますこと。

第五課

編から  
普通「がら」「さいふがらの適  
用」「家がら」「人がら」  
きまつた日。  
期日  
啓は申すの意の敬語。  
拜啓  
ますから、  
候間  
お願ひいたします。  
願上候  
いたします。  
いたし候  
思ひます。(候文語の基礎練習  
をすべし)

第六課

さうやかなる  
細き谷川の意。  
谷川  
本課には上流、下流、支流、本  
流、合流、貫流、南流など流の本  
字の作れる熟語多し。

殘念千萬  
千萬は甚しい意にて至極さい  
ふに同じ。

第二十六課

衆人の目をひ  
多くの人の目につく。  
課す  
わりあてる。  
四通八達  
四方入方に通じる。  
戸口  
戸數人口、  
尾張名古屋は  
城で人氣がついて居る。  
城でもつ  
實例をあげ示すべし。織物業。  
産業  
焼物業等。

尋常小學讀本卷九

第一課

神器、神代  
しんぎ、かみやよむ。  
時分はよしと  
丁度よい時である。  
私すべからず  
自分の物にしてはならぬ。

第二課

人皇  
じんわう又はにんのう。



、として知  
らる。、  
以て名高し。  
運河

言廻に注意すべし。  
陸地を掘りて水を通した河。

第七課

心願  
たつかさん  
威海衛攻撃と  
やら  
女手  
候はずや

心からの願、  
これ迄おかさんなりしをこ  
に初めてこの言方出づ。  
「やら」は威海衛攻撃といふ  
言葉がよく分らぬ故かく言へ  
るなり。  
女文字、  
ありせんか。

第八課

かしこくも  
すべ給ふ  
友軍  
そこばく  
機敏  
中將

申すも畏多いこと。  
全体をすべく、りなざる。  
仲間の軍、  
若干、どれだけかさいふ意。  
すばやいこと。  
ちゆうぢようさよむ其他はし  
やう。

第九課

馬でもこすが  
越すに越されぬ

馬のつてもこすがの意、  
越さうとして越されぬ。  
類例「行くに行かれぬ、かへ  
るにかへられぬ」

第十二課

僅かに其のあ  
とを止むるの  
み  
世の轉變の甚  
しきに驚くな  
るべし  
なだる

僅かに其のあさが残つてゐる  
をかりである。  
世のうつりかはりのひどいの  
に驚くでせう。「如何に」は意  
味をつよめる。  
斜に流れる。

第十三課

いられ候由  
祖父様  
下さるまじく  
拜見仕候  
御座候  
候へば

いらつしやるさうで。  
ぢぢ様、さよむ。  
下さいますな。  
みました。  
ございます。  
これ等候文語基礎練習をなす  
べし。

第十四課

福運  
風習  
御製  
境内  
おもひき

幸運な運。  
風俗習慣。  
わが國の爲めに盡せる人々の  
名をむさしのに止むる玉垣の  
けいだい。「八卷参内」寺社の  
境の内。  
何ともいへぬ味。  
國の内と外(國內、外國)。  
からがね。

内  
青銅  
行幸啓

行幸(天皇) 行啓(皇后皇太  
子)。  
誰だつて義勇奉公の心を起さ  
ないものがあらうか。  
誰だつて義勇奉公の心を起す、

誰か義勇奉公  
の心を起さど  
らん。

誰だつて義勇奉公の心を起さ  
ないものがあらうか。  
誰だつて義勇奉公の心を起す、

直に  
初航海

す心にさよむ「直ちに」ちを  
送れるときはわざとになり。  
はつ航海さよむ。

第十課

第十一課

街道、宿場  
旅程  
上下八里

かいどう、しゆくをさよむ。  
旅行の道のり。  
じやうげ。上り下り合せて八  
里、

何くれと  
風なきて  
ラント  
一方ならず、  
過されじ  
過足  
心もどなく

何やかさ、  
風か止んで、  
天幕、  
一通りでない。  
過されまい。  
はつろくさよむ出發に同じ。  
不安心、

第十六課

だんだら  
すでに面曰き  
安全を保つ

だんくになつたまだら。  
最早うれ丈でも面白い。  
保つはもちつ々ける。

第十七課

今一口  
二十七度かめ  
過ぎたるは及  
ばざるが如し

もう一口、「一口残」は補正成  
の言なりとの傳説あり。忠臣  
正成にしてこの心掛ありしこ  
とを説かはこの語に一層の權  
威あるべし。  
度々かめの意。  
過ぎたのは足りないと同じ様  
によくない。

第十八課



叛服常ならず  
ついたりうむいたりきまらぬ  
やたらについたりうむいたり  
する。

恩威ならび行  
恩も威も共に行はれる。

はれ  
はやぶさ  
鷹の一種にて眼鏡し。

征するや  
征しますき。  
あれ程迄。  
死がいの。

さしも  
死がいの。

かばね  
死がいの。

丈五尺八寸云々  
天平年間の一尺は現時の九寸  
八分に當る。

第十九課

空氣あればな  
り。進入する  
からです。

を防げばなり  
存在せずとい  
ふことなし  
(二重打消)

水にぬるこ  
こなるべし  
水なきゆるこ  
せう。

となかるべし  
能はざるべし  
あてがふ。  
方言「しひら」

第二十課

紅白花は開く  
雨にけひつてある中に紅や白  
の花が開いてある。

煙雨の中  
群雀。  
秋の末から冬にかけて吹く風。  
雨垂、

しら雀  
群雀。

木枯  
秋の末から冬にかけて吹く風。  
雨垂、

玉水  
雨垂、

第二十一課

當時  
少しづゝ立退、  
候とてころ  
候文語慣用語に注意すべし。

第二十二課

通帳  
かよひ帳、

第二十三課

東風吹かばの  
これ迄は春には美しくさいて  
よい香をしてなぐさめてくれ  
たが、今自分か遠くへ流され  
ても春が来たら見るに咲いて  
東風に托して香を送れ。  
(明石のうまやといふ宿場を)  
時に春秋あり盛意がある様に  
人々も榮松はまねがれられぬ。

驛長驚くなか  
れ云々

詩歌に思をよ  
詩や歌を作つて思をのべて。  
せて、  
我が身に過ぎた名譽を得た。

身に餘る面目  
秋を思ふといふ題で作つ詩、  
去年今夜の事を思へをばらわ  
たを切る様につらい。  
衣にたき込んだ香を、天子様  
の御徳の香がうつた衣のねも  
かげこの意。  
天子様がいたゞく。  
昔と今の有様のかはつたのこ  
ろを思ひくらべてたいへん感じ  
る。其の上に。

秋思の詩篇  
獨斷腸  
餘香  
恩賜  
今昔の感にた  
わす  
あまつさへ

第二十四課

競馬、神事  
くらべ馬、しんじこよむ。  
神事とは祭のまきする事をい

祝詞を上げる  
神に告げ申す詞。上げは讀み  
上げる。  
今か今か。  
なるが早い  
か  
五ヶ村はおろ  
わさ  
名折  
上を下へのさ  
大へんこんざつする。

第二十五課

有無相通し。  
有無。分合、異同、この中異  
同は異の意味のみの意あり。

第二十六課

三才女  
勅なればの歌  
三人の才の秀れた女。  
村上帝の御代清涼殿の梅の木  
枯れたれば人をやりて梅をも  
さめさせられたるに西の京に  
よき梅ありたれを掘りとりし  
かば其の家の女たんに歌を  
作りて木につけたりとあり。



くもる  
聞わ上げ  
幾代の春か  
をるらんか  
宮人の袖ひき  
とめて

歌の意は天子の勅であれを長  
れ多いてとてありませぬ  
さも申上るに春に來ませぬ  
がもし去年の鶯が春に來て自  
分のいつもの宿としてある梅  
の木はどこの宿か尋ねましたら  
何と答へませうかといふ意  
天皇これをごらんになつて誰  
の家か相尋ねに上つたら  
之が女の家の念の上をた  
らうれば残念のこととした  
仰せになつた。と附説すべし  
高き所、宮中のこと。  
申し上げる。  
いつ迄も後の世に幸しき言葉  
として傳るであらう。  
小式部の内侍の歌。父保昌は  
母(和泉式部)をつれて丹後  
に行きし後都にて歌合ありけ  
るに小式部も歌よみにてさ  
たり。この時納言定頼來り  
て丹後へやりし使はまたす  
やといひたり。蓋し小部式  
の十歳にて歌の巧なるは母  
の入智恵ならんと思ひしよ  
りてかく頼をいひたり。  
宮人は定頼を居る丹後へ行く  
歌の意は母の生野などいふ  
には大江山と道も遠いからま  
難所があつて道も遠いからま

きさいの宮  
たの奈良の部  
の歌

た文もきませぬといふ意。  
文と踏まかけたり。  
皇后のこま(上東門院藤原道  
長の女)  
伊勢大輔の作  
一條院のまき奈良の入重櫻を  
奉りしかば其折御前に侍りけ  
ればその花を題にて歌よめ  
の仰言あり。  
歌の大意は古奈良の都に咲い  
た八重櫻か今日は九重の宮中  
で天子様の御前に立派にさい  
てあます(古の奈良の都を追  
懐の意あり)。  
申上る。

第二十七課

丹青色  
唐門、唐木  
名狀すべから  
ず  
雪と散り玉と  
飛ぶ。

尋常小學讀本卷十  
第一課

いろどりのこま。(丹は赤)  
からもん、さうぼくこよむ。  
たさへ様がない。

恐らくは  
なるべし  
ひしる  
呪  
佛閣

用法に注意すべし。  
ヒートこよむ單數のこまはフ  
イト。寺。

第二課

内眼  
人間の眼

第三課

これのみにと  
す。かのみなら  
す。  
水をふくみさ  
ふ。

これをかきでかい。  
うの上の意に同じ。  
さふはもちこたへる。

第四課

うなじ  
峰高く

襟首、  
峰の上に高く。

いかにして都  
に來けり  
五百重のしほ  
路、柱、支柱

いかになつて京都へ來た。  
遠い海路、  
すみをしら、たもばしらこよ  
む。

第五課

和卷の學  
上東門院  
皇后  
みす  
一入  
御感  
才學

日本と支那との學問、  
一條天皇の中宮。藤原彰子、  
一條天皇の皇后定子、  
(御簾)すだれの敬語、  
一層、  
感心して御ほめになること。  
才智と學問、

第六課

考をねる  
考をねる

いろいろ考をこらす。

第七課

命のま  
王者の師  
無頼の少年

言ひつけられた通り、  
帝王の師範役、  
きまつた仕事のない悪いわか  
者。



良や、張や  
内に謀をめぐ  
やははの意。  
内は朝廷のこと。

第八課

方正

正しい。

第九課

榛木

紅

關東地方の田の畦に植ゑ稻等  
かけ乾かすに用ふ。尋常讀本  
田草取りの挿繪にあり。  
くれなゐこよむ。

第十課

かなしみたり  
かなしんださいふことです。  
となり

第十一課

知名の人  
世に知られた人、名高い人、  
わざなく人にさからばぬ。  
温順

第十二課

開城  
城をあけわたす。

水師營  
にふへ  
閣下  
おきて  
旅順口の地凡二里許にある一  
小村の名。  
ほゆる。  
軍隊にては將官以上をいふ。  
きまり。

第十三課

工夫をこらす  
苦心をして考へる、こらすの  
適用「精神をこらす」。「考案  
をこらす」  
うれみち。

第十五課

京家  
見參に入れよ  
大宮人、  
げんざんこよむ。お目につけ  
よの意。  
曲者  
あやしい者、悪者の意にあら  
す。  
草づり  
鎧の腰に分れて垂れたもの圖  
によりて説明すべし。

第十六課

人員點呼  
申上度、承り  
人数をしらべる。  
候、致し候、  
候へども、  
候文語の基礎練習。

讀法

どくほう。

第十八課

ブロー  
英語の吹くの意、こゝでは見  
付たくの意。

第十九課

悲鳴  
息もたわぐ  
かなしい泣聲。  
死力を盡して  
いきもきれぐ、「半死半生」  
を比較せよ。  
波にもまかせ  
死者ぐるひの力を出す。有ら  
ん限りの勇氣をふるひて。こ  
比較せよ。  
まかせずには巻かせずなり委  
せすに非ず。

第二十課

神氣自らさわ  
やか  
氣持が自然によいこと。  
山水のながめ  
心のまゝに山水の景色が見ら  
をほしいまゝ  
れる。

第二十一課

複雑

物のこみ入つてる。

第二十二課

おひよう  
おひようは促音になる。(ア  
イマ語。)

第二十五課

雲霞の敵兵  
雲か霞か分らぬ程多くの敵兵。  
落つ  
逃げはしる意。  
返歌、御供、  
くごよむ。天皇の御食事、  
かへし歌。  
御歌、御供、  
みうた、みさもごよむ。  
さして行く  
笠はさすもの故笠置よいはん  
ためかくいひしなり。  
天が下  
雨が下、天下、の兩方にひつ  
かけたるなり。  
頼むかげとて  
雨やどりに思つて松のかげ  
立寄ればとて  
によるさ、  
やみの天地  
くらやみの様なみだれたる世  
の中。

第二十五課

候はぶ、候へ  
候。これあり  
候文語の基礎練習をなすべし。











第十一課

證明  
風土  
たゆまない  
丹誠  
夜のとほり

證據をあげて説明する。  
氣候地味。  
怠らない。  
赤心の誠、真心、  
さげりは暮、

第十二課

家道  
公明正大  
歡心を買ふ  
心事  
花客  
愛敬

家のくらしむき。  
正しくてどこへ出して恥しく  
ないこと。  
人の氣に入る様にこきげんを  
とる。  
心といふに同じ。  
得意先。  
あいきよう。愛嬌とは異なる。

第十三課

耳をそばたて  
て聞く  
あた名  
異口同言

注意してきく。  
方言「しこ名」  
いくどうおん、多數の人が口  
をそろへていふ。

第十四課

からだをいど  
御國の敵を討  
ちなん  
我は

からだを大事にせよ。  
討ちなんは討つてしまふの意  
若し討たなんならば希望の意  
となれども。

第十五課

御光來下され  
候は  
至りに候  
御参列成し下  
され候は  
り難く存じ奉  
り候  
御光臨の榮を  
賜はり度  
候に付  
追て  
建碑式

光榮、光來、光は先方を敬い  
ていふ語。  
日用文慣用に注意すべし。  
石碑には建碑式といひ銅像に  
は除幕式。

第十六課

夜もすがら  
その意を得た

終夜、「路すがら」後にあり。  
思ふ通りなる。

第十九課

絶壁  
霧ごちり雨と  
飛ぶ

切り立てたやうながけ。  
霧ごちり雨となつてこ  
ぶ。

第二十課

風折鳥帽子

鳥帽子の頂を折り伏せたもの。

第二十一課

雑物  
レースの流  
ブラツシ

種々なまざりもの。  
レースとは透くやうに織りた  
るもの窓かけ、女のじゆばん  
の袖口等に用ふ。流はその連  
續を形容せる語。  
刷毛

第二十二課

似たらずや  
異らふ  
といはんか

似たり。といふべき意の言  
廻の變化に注意すべし。

第十七課

經濟  
獻立  
身を立て父母  
をわらはす  
年齒  
片言隻句  
未練  
人生七十年

金錢等を有利に使ふこと實例  
をあげておくべし。  
實例を示すべし。  
はす。  
年齢、  
短い句、  
あきらめのつかぬ。  
人生五十年は細川頼之の詩  
なれども決して人の一生が五  
十年といふにあらす、人生が  
て五十年も経つていふ意  
を世人が誤解せるなり。隨  
て日本人の精神を害し早老等  
之に原因すること夥からず故  
に人生七十年と書けるなり。  
之點教授者は注意すべし。

第十八課

寄食  
心得ぬこと  
心構  
非凡  
丹青の妙

居候、食客、  
不思議のこと。  
心にきめること。  
並々でない、  
丹青は畫のこと。畫の出來、



第二十三課

渡るべきなり  
得べきなり  
多かるべし  
知るべし

べしの用法に注意すべし。

第二十四課

光陰矢の如く  
致さす候へど  
も、拜具

日月は流るゝ水の如く(十課)  
と比較すべし。  
候文慣用語、

第二十五課

劉備  
後漢  
末流  
あへて  
出帥  
機に  
應じ

劉は姓、備は名、  
垂仁天皇の頃より應神天皇の  
頃まで凡二百年間の支那の國  
號、  
子孫、  
をしきつて、  
すあし、出兵に同じ。  
時々によりてよい智慧が出、  
かはるに隨かつて謀が出る。

天授

人並勝れたもの。

第二十六課

胴衣

上衣と肌着の間に着る短い衣。

第二十七課

勸業  
温厚  
原案  
可決  
豫算  
二毛作

農工等の業を勤めること。  
おとなしく手厚い。  
提出した者の下がり。  
可いとしてきめる。  
豫め定めた計算、  
ふたげ作、一年に二つの作物  
をつくる。

第二十八課

君臣分は定り  
萬世一系  
御稜威  
細戈千足の國  
君子國

君と臣との差が明かに定る。  
いつの代までも一すぢの糸の  
やうにつゞく  
御威光。  
武器の多い何事も不足のない  
國、上古日本の美稱、  
聖武帝の時藤原清河、唐に行  
きし時其の容止の上品なるを  
見て禮儀君子國と日本をいひ  
たるより出づ。

瑞穂の國

みづくした稻のよくみのる

粹をぬく

よい點丈あつめる。

かんがみ

かんがへ見る。

天職  
戊申の詔書か

天より授かつた職。  
戊申詔書を賜はつたのはもつ  
たいない。

第二課

はかぢに心を  
許さぶらなん

も國民は心をゆるめず文武  
にはげめの御心なるべし許  
さばらなんのなんは希望の  
意にて心を許さぬ様にあつて  
ほしい。

尋常小學讀本卷十二

第一課

萬機の政をみ  
そなはす。  
神代よりうけ  
し寶を守に  
國の柱の動き  
なく御祖の神  
の教  
鍛ひたる劔の  
光  
沈風のしづか  
なる日も船人

萬づの政事をねこりあろばす。  
みそなはすは見るの敬語御覽  
になる。  
神代からうけついで寶(寶祚)  
を守にして。  
國体の永久ゆるぎなく尊いて  
こ。  
皇祖天照大神の御神勅をさし  
給へるなるべし。  
鍛練してある武勇の光、  
風波しづかな日にも船人は油  
断をせぬ。つまり平和の時に

第三課

哨艦  
無二無三  
無慮  
奇績  
麾下

見張りの艦、  
あき目もふらず一心に、  
大凡、  
不思議な功績、  
將校の部下、

第六課

七里が濱のい  
そ傳ひ、稻村  
が崎名將の劔  
投せし古戰場

七里が濱のいろを傳つて行く  
さ稲村が崎があることは名將  
(新田義貞)が劔を投じたる戦  
場である。



露坐 雪の下村 問はぶや遠き 世々の跡、 しづのをだま さくりにかへし かへせし人を しのびつゝ 山門	あまさらし、適用「露店、露出」地名。 遠い昔の物語を問ひたいなあ (銀杏に) 私ばかりかへし／＼かへせし人(舞の袖をかへして舞ふた人即静御前)を追懐しながら。寺の門。
第七課	攻めあぐむ あく。適用「見あぐむ」。讀みあぐむ。 攻め落す。 長く圍んで兵糧攻にすること。命且夕にせまるの意。轍は車のわの通つたあと。あきこふあぎを動かし泡をふきながら苦しむ。 昔陣にて合圖の爲めに煙を打上げる。筒に火薬を入れて。やうす。この語は音信書簡安孟等の意にも用ひられる。 水が丁度一をいになつた。

第八課	良人 自若 妻が夫にいふ語。 事にあつてあはてぬ。
第九課	發布 普及 世に廣くつけ知らされる。 廣くどこまでもまゝく。
第十課	私事、公事 私事は一身一家に關すること。わたくしの事、適用「私利、私用」。公事は國家社會に關すること。たげの事、「公務、公用、公益」。 すゝめあげる。 先後は輕重をあらはすに注意すべし。
第十一課	推舉 國家の急を先にし私のうらみを後にす。 先後は輕重をあらはすに注意すべし。
第十二課	消長 類語「盛衰、榮枯、増減」

なすむ それにかゝはる。なすますは改良する。	第十三課 うまし國 山をうがらて 山を鑄る。 農産收入何あれど どぎ出し蒔繪 百里比隣	美しいよい國、 山をほつて其の山から出る鑛物を鑄る。 何あれどは何やかや種々あれど。 蒔繪の上に又漆をぬつてそれをみかいて光を出さす。 遠い所も隣の様な。
第十四課	破産 愛顧になれて	身代限り、 愛顧はヒイキ。なれては圖にのつて横着をする。
第十五課	埠頭 駐劄 總領事	決止場、 或る任務を以て其處に留る。 領事を總ぶるものにあらず比較的重要な地に置きたるものをいふ。
第十六課		

第十八課	雅麗 廣小路 創建 上品で美しい。 廣い街小は小さいの意にありす。 始め建てる。類語「創立、創業」
第十七課	遊牧の民 オレンジ 洋々たる江流 水草を追ふて轉居する未開の民。 みかん。 廣々した河の流、
第十六課	はかなみ 遠き慮なけれは 近き憂あり 心廣く休ゆたかに 守る所 位人臣をきはめ 浮雲の如し 優柔不斷 かなしみ、心細く思ふ。 目先のことばかり考へてやつて深い先の考がないと且夕に迫る憂き目がある。 心もちかよくからだ迄のびのびする。 自分の心にしつかり定めて守つて行く。 けらいとしてこの上もない位に昇る。 浮雲のおはり／＼した様にたのしみならぬ。 心がよわくて思ひ切りの悪い(剛毅果斷の反對)



第十九課

客遊 遊歴してよそにさまる。  
手の舞ひ足の 非常に喜びの有様をあらはす  
ふむ所をしら うれしさのあまり思はずおど  
す。

第二十課

義足 足をきつてその代りにこしら  
へた足。  
喜捨 めぐみ。ほどこし。  
侍ちわびる 侍ちかねる。

第二十一課

烈士 みさをかたくその爲めに命を  
おしまぬ人。  
走卒 走り使などする賤つもの。  
獸待 人をけものあつかひする。

第二十二課

入るを計つて 収入をかんがへて支出を制限  
出づるを制す する。

第二十三課

春秋時代

我が國の紀元百年前から紀元  
二百五六十頃迄凡三百五六十  
年間。  
溫良恭儉、恭儉は身にしま  
りがあること。  
君君たり、父子  
父たり、父子  
たり。 君臣父子互に盡すべき道をつ  
くし守るべき道をよく守る。  
まぢ。

第二十四課

門地 家柄、

第二十五課

公吏 官制により任命されたもので  
なくして國家の公務を扱ふ者市  
町村吏員、公證人、執達吏等  
をいふ。  
自治制 自治制につき大體話をすべし。  
自治制とは地方自治團體又は  
地方公共組合を設け、國家の  
政務の中其の團體の公共事務  
を自ら處理する者。

第二十六課

直接國稅 實例をあけて知らすべし。  
例へば地租、所得稅、酒造稅、

一定の選舉資格

織物稅等  
年齢滿二十五年以上の帝國臣  
民たる男子にして其の選舉區  
内に滿一年以上住所を有し、  
滿一年以上地租十圓以上、  
二年以上地租以外其他の直接  
、若しくは地租と其の他の直  
接國稅とを合せて十圓以上納  
むる者。

第二十七課

股肱 最もたのみにする  
意。ひぢ、最もたのみにする  
意。まじりのない寄合。  
鳥合の衆 鴻毛はおほりの毛、輕きに  
たどへたもの。  
不覺 臆病の意。  
文弱 情弱のこと尙武の氣のない。  
拳々服膺 拳々ばさばさ、げもつ、服膺は胸  
につける。よく守ること。  
海行かばね、みづ 海を行かばねを水に浸して水  
底の藻屑を山を水に浸して水  
山にさらして草の生ねるにま  
かす、覺悟で大君のため死  
するをいさばすこれが本望で  
あるの意。  
みづくは水漬く、草むすは草  
の生ねること。

人倫の常經 人のふみ行ふべき道、  
豈一日も之を せうして一日もこれを忘れま  
忘れんや せうか、忘れはしません。

第二十八課

御氣色 けしき、御氣分、  
津々浦々 いたる所の海邊。ここまでも  
國是 到らぬ所なく、  
いや増し 國を政める方針、  
いやか上にも、いよく。



附 録

國定教科書に採れる標準讀方

◎注意(文字の困難なるもの、誤り易きものを選んで)抽出した。○印は注意を其處にせよの意。

一、御歴代の部		御 諭 號	出 所
齊	允	明	明 (さいめい)
反	應	神	神 (はんしやう)
垂	崇	仁	仁 (すゐにん)
神功皇后			(じんぐう)
綏	靖		尋歴一附録 (すゐせい)
天	武		天 (てんち)
文	武		文 (てんむ)
平	城		平 (へいせい)
淳	和		淳 (じゆんな)
仁	明		仁 (にんみやう)
文	德		文 (もんとく)
陽	成		陽 (やうせい)
朱	雀		朱 (すざく)
冷	泉		冷 (れいせい)
尋歴二附録			

二、人名の部		人 名	出 所
圓	融	圓 (ゑんゆう)	尋歴二附録
四	條	四 (しでふ)	
光	明	光 (くわうみやう)	
後	柏	後 (ごかしはばら)	
後	水	後 (ごみづのを)	
明	正	明 (みやうしやう)	
仁	孝	仁 (にんかう)	
武甕雷神		武甕雷神 (たけみかづちのかみ)	高歴一
天兒屋根命		天兒屋根命 (あめのこやねのみこと)	同
天忍日命		天忍日命 (あめのおしひのみこと)	同
武内宿禰		武内宿禰 (たけうちのみすくね)	尋歴一
菟道稚郎子		菟道稚郎子 (うぢのわかいらつこ)	高歴一
高向玄理		高向玄理 (たかむこのげんり)	同
南淵靖安		南淵靖安 (みなぶちのしやうあん)	同
旻		旻 (みん)	同
吉備真備		吉備真備 (きびのまきび)	同
淡海三船		淡海三船 (あふみのみふね)	同
太安麻呂		太安麻呂 (おほのやすまろ)	同
舍人親王		舍人親王 (とねりしんのう)	同
蘇我蝦夷		蘇我蝦夷 (そがのゑみし)	尋歴八
大伴家持		大伴家持 (おほともやか)	高歴一







榎本武揚 (ねのもとたけあき)	尋歴二64
木戸孝允 (きごとなかよし)	同 67
西郷從道 (つぐみち)	同 69
谷干城 (たてき)	同 73
有栖川宮熾仁親王 (たるひと)	同
花房義質 (はなぶさよし)	同 79
野津道貫 (みちつら)	高歴三59
伊東祐亨 (いがかう)	同 56
黒木爲禎 (ためもと)	同 73
奥保鞏 (やすかた)	同 74
乃木希典 (まれすけ)	同 75
川村景明 (かげあき)	同 76
天照大神 (あまてらすお)	尋歴五1

楠木正行 (ほみかみ)	尋歴七1
松下禪尼 (せんに)	同 八16
伊勢大輔 (いせたいふ)	同 十95
村上義光 (よしてる)	同 十一2
加藤嘉明 (よしあきら)	同 十二37
種子島時堯 (ときたか)	高歴一36
統仁 (たきひと)    孝明天皇	同 二1
節子 (さだこ)    皇后陛下	同 四2
迪宮裕仁 (みちのみやひろひと)	同 1
淳宮雍仁 (あつのみややすひと)	同 2
光宮宣仁 (てるのみやのぶひと)	同 2
泰宮聰子内親王 (やすのみやとしこ)	同 2

貞愛親王 (さだなる)	高歴四2
熾仁親王 (たかひと)	同 2
有栖川慰子 (やすこ)	同 3
閑院宮載仁親王 (こさひと)	同
東伏見宮周子 (かねこ)	同 5
賀陽宮恒憲殿下 (かやのみやつねのり)	同
久邇宮邦彦王 (くによし)	同
久邇宮規子 (くにのみやちかこ)	同
鍋島直大 (なべしまなほ)	同 6
鳩彦王 (やすひと)	同
允子親王 (のぶこ)	同
北白川宮成久王 (なるひさ)	同 7
稔彦王 (なるひと)	同 6
恒徳王 (つねまし)	同 7

三條實美 (さねとみ)	高歴四123
阿閉掃部 (あどぢかもん)	同 4
成吉思汗 (じんぎすかん)	同 127
鐵木真 (てむじん)	同 62
忽必烈 (ふびらい)	同 62
愛親覺羅努爾哈赤 (あいしんきやろぬるはち)	同 65
マルコ、ポーロ (索羅)	高歴三1
パスコ、ダ、ガマ	高歴二46
フランソア、ザビエー	高歴三2
ペートル大帝	同 6
レセツプス	高歴一50
攝政 (せつしやう)	高歴二80

三、官名、諸役所の部

名	稱	出所
攝政	(せつしやう)	尋歴一35



公郷	(くぎやう)	尋歴二	3
公方	(くばう)	同	3
公家	(くげ)	同	23
外様大名	(とざま)	同	30
老中	(らうちゆう)	同	47
博士	(はかせ)	高歴一	21
中務	(なかつかさ)	同	23
兵部	(ひやうぶ)	同	
刑部	(ぎやうぶ)	同	
防人	(さきもり)	同	
間注所	(もんちゆうしよ)	同	54
公文所	(くもんじよ)	同	

四、神社、佛寺、城等の部

談山神社 (たんざん) 尋四修教用

建勳神社	(けんくん)	尋四修教用
信長公		
豊榮神社	(とよさか)	同
元就公		
豊國神社	(とよくに)	同
照國神社	(てるくに)	同
齊彬公		
靈山神社	(りやうせん)	同
親貞公		
梨木神社	(なしのき)	同
三條實萬公		
榎原神宮	(かしはらしんぐう)	尋地一
54		
金剛峯寺	(こんがうぶじ)	同
56		
金刀比羅宮	(ことひらぐう)	同
高讀三		
43		
大神神社	(おほみわじんじや)	尋讀十
4398		

鹽竈神社	(しほがま)	高讀三	43
飛鳥の安居院	(あすかのあんごいん)	尋讀十	101
原城	(はらのしろ)	尋歴二	38
島原半島			
聚樂の第	(じゆらくのだい)	同	23
法成寺	(ほふじやうじ)	高歴一	44
紫宸殿	(ししんでん)	同	45
園城寺	(をんじやうじ)	同	49
大極殿	(だいごくでん)	尋讀八	52

五、地名等の部

臺灣	(たいわん)	尋地一	1
樺太	(からふと)	同	
群馬縣	(ぐんまけん)	同	8

埼玉縣	(さいたまけん)	尋地一	8
茨城	(いばらき)	同	
栃木	(とちぎ)	同	
宮城	(みやぎ)	同	
岩手縣		同	22
日原	(につばら)	高地二	18
武藏所在			
大湊	(おほみなと)	尋地一	26
青森縣所在			
小坂	(こさか)	同	27
酒田港	(さかた)	同	29
山形縣所在			
新潟	(にひがた)	同	35
清水	(しみづ)	同	36
静岡縣所在			
熱海	(あたみ)	同	
直江津	(なほつ)	同	42
潮の岬	(しほのみさき)	同	48



庫倫 (くゝろん) 高 地 一 14  
 澳門 (あうもん) 高 地 一 27  
 拉薩 (らつさ) 高 地 一 14  
 イルクツク (クツクに非ず) 同 17  
 暹羅 (しやひ) 尋 地 二 51  
 盤谷 (ばんこく) 高 地 一 24  
 ラングリン 同 24  
 ビルマ 同 25  
 ガンボヂヤ 同 25  
 馬來群島 (まらいぐんたう) 尋 地 二 52  
 ルソン島 (呂宋 || 高 地 二 55) 高 地 一 27  
 じゃば島 同 52  
 波 斯 (べるしや || 同 6  
 しやに非ず) 同 52  
 大洋洲 (たいやうしゆ) 尋 地 二 47

高 地 一 14  
 高 地 一 27  
 高 地 一 14  
 同 17  
 尋 地 二 51  
 高 地 一 24  
 同 24  
 同 25  
 同 25  
 尋 地 二 52  
 高 地 一 27  
 同 52  
 同 6  
 尋 地 二 47

たーすとらりや (濠太刺) 利) 尋 地 二 28  
 パプア一名ニユーギネア 同 31  
 伯 林 (べるりん) 同 31  
 べてるぶるぐ (彼得堡 || 高 地 附) 同 56  
 諾 威 (のるうわい) 同 37  
 丁 抹 (でんまろく) 同 38  
 西 班 牙 (いすぱにや) 同 38  
 伊 太 利 (いたりや) 尋 地 二 57  
 瑞 西 (すいす) 同 56  
 埃地利洪牙利 (おーすと) 同 56  
 白 耳 義 (べるぎ) 同 57  
 維 也 納 (ういーん) 同 57  
 葡 萄 牙 (ぼるとがる) 高 地 一 28

尋 地 二 28  
 同 31  
 同 31  
 同 56  
 同 37  
 同 38  
 尋 地 二 57  
 同 56  
 同 56  
 同 57  
 同 57  
 同 57  
 高 地 一 28

米 原 (まいばら) 尋 地 一 05  
 杵 築 (きづき) 同 66  
 養 養 (むや) 同 4  
 大 阪 (おおいで) 同 56  
 坂 出 (さかいで) 同 5  
 八 幡 (やはた || 編 岡 縣 所 在) 同 11  
 名 古 屋 || 肥 前 所 在 高 地 二 38  
 佐 世 保 (させぼ) 尋 地 二 13  
 鳥 栖 (とす) 尋 地 附 圖 24  
 金 瓜 石 (きんくわせき) 尋 地 二 22  
 馬 公 (まこう) 同 28  
 擇 捉 島 (わとろふ) 同 28  
 カムチャツカ半島 同 28  
 京 城 (けいじやう) 同 38  
 名 寄 (なよろ) 尋 地 附 圖 23

尋 地 一 05  
 同 66  
 同 4  
 同 56  
 同 5  
 同 11  
 高 地 二 38  
 尋 地 二 13  
 尋 地 附 圖 24  
 尋 地 二 22  
 同 28  
 同 28  
 同 28  
 同 38  
 尋 地 附 圖 23

美 作 (みまさか) 尋 地 附 圖 1  
 渡 島 (をしま) 同 2  
 牡 鹿 半 島 (をじか) 尋 地 一 20  
 男 鹿 半 島 (をが) 同 13  
 國 東 半 島 (くにさき) 同 13  
 打 狗 (たかを) 尋 讀 十 37  
 海 豹 島 (かいへうたう) 同 99  
 亞 利 加 合 衆 國 (初 出) 尋 地 一 2 等  
 北 米 合 衆 國 (初 出) 高 讀 四 35  
 フイリピン群島 尋 地 一 2  
 附 圖 || 比 律 賓 同 45  
 浦 潮 斯 德 (うらちおすと) 同 50  
 シベリヤ (西 比 利 亞) 同 50  
 中 亞 細 亞 高 地 一 16  
 コーカシヤ 同 18  
 廣 東 (くわんとん) 同 13

尋 地 附 圖 1  
 同 2  
 尋 地 一 20  
 同 13  
 尋 讀 十 37  
 同 99  
 尋 地 一 2 等  
 高 讀 四 35  
 尋 地 一 2  
 同 45  
 同 50  
 高 地 一 16  
 同 18  
 同 13



船上山 (せんじやうさん)	大山 (だいせん)    伯耆	大臺原山 (おほだいがはら)	山上が岳 (さんじやうがたけ)	笹子峠 (ささごたうげ)	白山 (はくさん)	乗鞍が岳 (まがらき)	大山 (おほやま)    關東地方	八甲田山 (やつかふだ)	月山 (ぐわつさん)	筑波山 (つくば)	碓氷峠 (うすひたうげ)	男體山 (なんたいざん)
同	同	同	同	同	同	尋地	同	尋地附圖	同	同	尋地	尋地
756	767		46	37	30			8	19	17	15	5

三瓶山 (さんべやま)	金北山 (さんぼくざん)	戸隠山 (とがくしやま)	妙高山 (めうかうざん)	八風岳 (やつかたけ)    中部地方	寒風山 (かんふうざん)	英彦山 (ひこざん)	温泉岳 (うんせんだけ)	九重山 (くぢゆうざん)	祖母岳 (そぼ)	開聞岳 (かいもんだけ)	石鎚山 (いしづちやま)	金剛山 (こんごうせん)	劔山 (つるぎざん)
高地	同	同	同	同	同	同	尋地	高地	同	同	尋地	尋地	尋地
18							附	28			附	88	附

コンスタンチノブル	ジブラルタル	マルセイユ (馬耳塞)    高 (讀四40)	リヨン (里昂)    高地附	グリニチ	リバプール	オックスフォード	ケンブリヂ	ハーグ (海牙)    高地附	ルアーブル	チューリヒ    瑞西所在	ミュンヘン	ライプチヒ (ブッチーに非ず)	コペンハーゲン
同	同	同	高地	尋地	同	同	同	同	同	同	同	同	高地
62	58		50	45	57		56	53	50	48	45	44	42

榛名山 (はるなさん)	六、山、山脈等の部	スエズ (蘇士)    高地附 (讀四40)	バンクーバー (晚香坡高)	サンチャゴ    チヤに非ず	サンパウロ    ボーに非ず	ギヤナ	シヤトル    シヤにあらず	キンパーリー (あふりか所在)	智利 (ちり)	紐育 (にゆう)	埃及 (わじぶと)	マダガスカル
尋地		同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	高地
5		1	77	89	88	87	80	71	62	60	58	64



エベレスト山	高地一	1
コーカサス山脈	同	18
アペニン山脈	同	34
カルパチヤ山脈	同	

七、河川の部		出所
河川名	出所	
多摩川 (たまがは)	尋地一	6
阿賀の川	同	19
神通川 (じんづうがは)	同	31
紀の川 (がうのかは)	同	54
江の川 (おほたがは)	同	60
大田川 (くまがは)	同	7
球磨川 (をんががは)	同	9
遠賀川 (てしほがは)	同	23
天鹽川	同	

朝來川 (あさこがは)	尋地附圖
渡川 (わたりがは)	同
川内川 (せんだいがは)	同
豆満江 (つまんこう)	尋地二 35
吾妻川 (あがつまがは)	尋地九 15
鈴谷川 (すずやがは)	尋地十二 96
留多加川 (る多加がは)	同
だにゆいぶ河	同
みししつび河	尋地一 2
あまぞん河	尋地二 61
黒龍江 (こくりょうか)	尋地二 18
かんじす河	尋地二 59
いんだす河	尋地二 42
ゆいふらと河	尋地二 56
高地附圖	同

みすいり河	高地一	73
-------	-----	----

八、湖の部		出所
名	出所	
蘆の湖 (あしのこ)	尋地九 38	
サロマ湖 (北海道)	高地二 2)	
宗道湖 (しんちこ)	尋地一 60	
中海 (なかうみ)	同	

九、海、灣等の部		出所
名	出所	
鳴門海峡	尋地一 48	
オホーツク海	尋地一 2	
下關海峡	同 66	

十、生物産の部		出所
名	出所	
練鰯 (にしん)	尋地二 2)	
明太魚 (めんたい)	尋地二 36	
石首魚 (ぐち)	同 16	
鮠魚 (さんせううを)	高地二 41	
山椒魚 (同)	高地二 21	

有明の海 (ありあけのうみ)	尋地二 8
亞庭灣 (あにはわん)	同 30
冬來加灣 (たらいかわん)	同
ばらちつく海	同 56
ボスポロス海峡	高地一 62
テワンテペク海峡	同 82
大西洋	尋地二 46



柔魚 (いか)	高讀二 68	菜 (てんさい)	高地一 35
馴鹿 (じゆんろく)	高地一 5	阿且 (あだん)	高地二 41
ジラフ (麒麟は採らす)	同 66	沙欄 (へご)	同 41
ゼブラ (斑驢は採らす)	高地二 38	林檎 (りんご)	高讀一 122
ペンギン	同 41	苹果 (りんご)	同 144
熊 (しぐま)	同	紫雲英 (れんげさう)	同 22
飯匙青 (はぶ)	同	燕麥 (からすむぎ)	尋讀十二 99
煙草	尋地一 7	鑛産物 (くわうさんぶつ)	尋地一 3
甘蔗 (さとうきび)	同 11	無焔炭 (むねんたん)	同 14
檜松 (とごまつ)	同 25	羽二重 (はぶたへ)	同 12
蝦夷松 (わぞまつ)	同	麥稈真田 (ばくかんさなだ)	同 63
落葉松 (からまつ)	同 31	牛酪 (きゆうらく)	高地一 52
高梁 (かうりやう)	同 42	乾酪 (かんらく)	同
菜種 (なたね)	同 63		
芸薑 (なたね)	尋讀二 99		
馬鈴薯 (じゃがたらいも)	高地一 43		

尋常小學 教授活用之資料 終



教授活用之資料

大正二年八月廿五日印刷  
大正二年九月五日發行

著作兼 佐藤秀之助  
 發行者 大井有隣  
 廣島市銀山町拾三番邸次十五番  
 印刷所 永井印刷部  
 廣島市平田屋町二番邸  
 印刷人 永井林太郎







終